

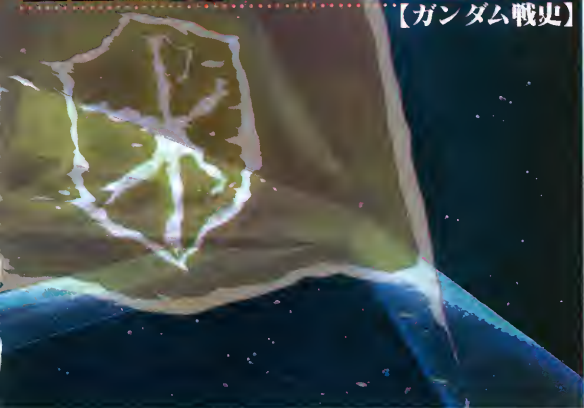


**機動戦士ガンダム
MS大図鑑
PART.5
【C・バビロニア建国戦争編】**

Illustration by YUJI KAIDA

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】



1、理想への建国

コスモ・パロニア

宇宙世紀が一世紀を越えるころ、人類は自らの生活圏として宇宙空間をあたりまえのように受け入れていた。かつて人類の半分の死に到らしめた、悪夢のような一年戦争も人々の記憶から薄れ始めている。宇宙世紀0093年のシヤアの反乱、0105年のマフティー動乱以降、反地球連邦活動も鎮静化し、一見地球圏は平和そのものに見えた。だが、逆に地球連邦政府は、その表面上の平和の上に安逸としてあぐらをかき、政府内部の腐敗はより進行していた。連邦の高官は、いずれ地球にもとるために戦乱で荒れ果てた地上の再開発を進めている。

【第5章 コスモ・バビロニア建国戦争】

ジャンク関係の産業で宇宙世紀の発展に参加してきた、マイツツアーは、人類が宇宙へ進出したときの新たな可能性と、状況に甘え消費へ依存したときの醜悪さを肌で感じていた。



しかし、それは自分たちの生活の充実のためのものであり、本当の意味での地球の再生とは程遠いものであった。宇宙世紀一世紀のなかばに生を受けたマイツツアー・ロナは、父親の遺したブッホ・コンツェルンを拡大させるとともに、心の中に秘めた理想を実現に向けて動かしていた。その理想とは、人類を本当の意味で生き残らせていくためには、能力を持ったものが統制していくしかないという、コスモ貴族主義である。マイツツアーは、理想を実現するための尖兵として、優秀な人材をクロスボーン・バンガードという組織にまとめ上げた。そして、理想の王国、コスモバビロニア建国に向けて挙兵することを思い立ったのである。

GUNDAM WAR HISTORY

【ガンダム戦史】

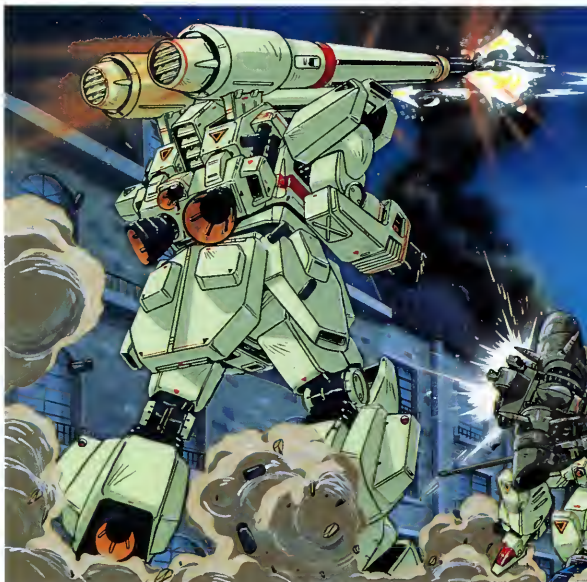


2、侵攻の開始

フロンティアⅣ

地球と月との間にあるラグランジュポイントに、フロンティア・サイドとして新たなスペース・コロニーの建設が始まっている。その中のひとつであるフロンティアⅣに、ある日突然、謎の軍隊が侵攻してきた。高性能のMSを駆使するこの軍隊こそ、クロスボーン・バンガードであった。彼らは、フロンティア・サイドをコスモバビロニア建国の地と定め、制圧を開始したのだ。平和に酔い、戦いから遠ざかっていた連邦の駐留軍隊は、クロスボーン・バンガードの敵ではなかった。中には、民間人を盾にすることを憚らないものさえいた。戦いは、

フロンティアⅣにクロスボーン・バンガードの侵攻が開始された。その神速ともいえる奇襲に、連邦軍はなすすべがなかった。取り乱した兵士は、コロニーの施設を破壊することを気にも止めなかった。



一方的に進められた。

ハイスクールの生徒、シーブック・アノーは、学園祭の最中にこの出来事に遭遇する。

シーブックは、妹のリイズや同窓生のセシリー・フェアチャイルドを始めとする友人たちと一緒に戦いを避け、避難する。シーブックたちは、スペースポートを使い、ほかのコロニーに行くことにした。

その準備の最中、セシリーがクロスボーンのMSに連れ去られようとする。阻止しようとしたシーブックは、セシリーの義父、シオの銃弾を受け、傷ついてしまった。セシリーはシオとともにクロスボーンのもとに行き、シーブックは、どうにかフロンティアⅣからの脱出をはたした。やがて、このふたりは否応なく戦いにかかわって行くことになる。

GUNDAM 【ガンダム戦史】WAR HISTORY



3、制圧、そして…

クロスボーン・パンガード

フロンティアⅣの制圧をはたしたクロスボーン・パンガードは、そこを拠点としてほかのコロニーの制圧を開始する。フロンティアⅡ、Ⅲを難無く制圧したが、連邦の研究機関であるサナリイの本拠がおかれているフロンティアⅠはさすがに攻めあぐねていた。フロンティア・サイドの住民たちの態度は、ふたつに別れた。凶悪な侵略者としてクロスボーン・パンガードを排斥しようとする抵抗派と、コスモバビロニアの思想に共感してこれを受け入れる一派である。フロンティアⅠは、生き残りの駐留軍隊が結集し抵抗派の拠点となっていた。フロ

ザビーネ・シャル率いる黒の部隊、
ブラックバンガードが進攻する。
クロスボーンの中でも特によりす
ぐりのパイロットで編成された部
隊だ。セシリーはこの部隊ととも
に戦いに出た。



ンティアIに逃げ込んだシー
ブックたちは、戦闘員の不足
から戦闘を手伝われる。特
にシーブックは、母、モニカ
が設計に参加した新型MS、
F91のパイロットを務めるこ
とになる。初戦で戦果を上げ
たシーブックは、ニュータイ
プではないかといわれる。

一方、ベラ・ロナとしてロ
ナ家にもどったセシリーは、
ビギナ・ギナのパイロットと
して、クロスボーン・バンガ
ードの象徴の地位に据えられ
る。フロンティア・サイドの
完全な制圧を画策するクロス
ボーン・バンガードは、大々
的な進攻を、フロンティアI
へ開始する。シーブックとセ
シリーは、自分たちの思惑と
は関係なく、戦場で敵対する
もの同士として再会すること
になってしまった。

GUNDAM 【ガンダム戦史】WAR HISTORY



4、狂乱の仮面

ムフツシア

セシリーは、シーブックの説得を受け入れ、乗機とともに連邦軍へ投降した。フロンティアIに侵入したクロスボーンのMSも撃退し、戦闘は一段落するかに見えた。だがしかし、クロスボーンの最高指導者である鉄仮面は、さらに恐るべき作戦を発動していたのである。フロンティアIの発電施設に接岸した戦艦から、無差別殺戮兵器、バグがフロンティアIの中にばらまかれた。コロニー内のすべての人間を殺し尽くすまで、バグは活動を停止しない。バグを殲滅するためにシーブックたちは出撃するが、バグはMSをも攻撃する。しかも、多

MA、ラフレシア。操る鉄仮面の凶悪な意志を象徴するように、5枚の赤く禍々しき花弁を宇宙空間に拡げる。MSはもとより、戦艦すら問題としない攻撃力を秘めている。



勢に無勢、連邦のMSは次々と撃墜されて行く。大元を断つために、シーブックとセシリーは、接岸されている戦艦へと向かった。セシリーの一撃が戦艦を破壊する。作戦の支障を感じた鉄仮面は、自らMA、ラフレシアに乗り込み戦いの場へ乗り出した。鉄仮面の意志そのままに攻撃を行なうラフレシアの攻撃力は、戦艦すら凌駕した。戦いの元凶となる凶悪な意志を鉄仮面から感じ取ったシーブックとセシリーは、果敢にラフレシアに立ち向かった。鉄仮面は、自分の思惑をはばもうとするものを許そうとせず、娘であるセシリーすら殺そうとする機能を失った機体から、宇宙空間へと放り出されセシリー。そのとき、シーブックの闘志に答えガンダムが咆哮した。

GUNDAM 【ガンダム戦史】WAR HISTORY



5、家を探しに

「オープニング」

シーブツクの闘志に答え、ガンダムが機能を全開した。質量のある影に惑わされたラフレシアは沈んだ。

爆発のあとの一瞬の自失状態から回復すると、シーブツクは必死でセシリーを捜した。だが、機能が半壊しているガンダムのセンサーはセシリイを見つけられない。取り乱すシーブツクを、母、モニカが叱咤した。精神を揺れば、あなたを本当に必要としている魂を見つけられるはずだ、と。何かを感じ取ったシーブツクは、ノーマルスーツだけで宇宙へ翔ぶ。

シーブツクが見つけた白い光は、百合の花だった。そし

親たちの思惑に翻弄されたセシリーの心は、還るべき家を求める。そんなセシリーの思いを、シーブックは包み込みたかった。今、ふたりはお互いが、お互いを必要としている。

原画：後藤雅巳、堀井久美
仕上げ：スタジオK
背景特効：橋爪朋二

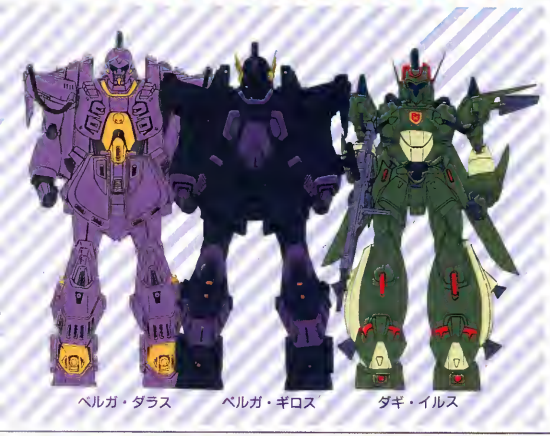
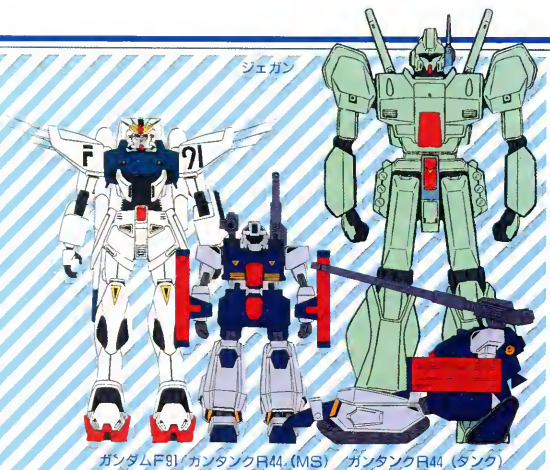


て、その先には還るところを失い、孤独に宇宙空間を漂うセシリーの姿があった。セシリーに追いついたシーブックは、柔らかくセシリーを抱きとめた。セシリーの瞳がゆっくりと開かれる。視線がお互いを見つめあう。ふたりは、お互いが必要なものであることを確信した。

そして、スペースアークがふたりを回収するために近づきつつあった。

今、ひとつの戦いが終わった。しかし、これは新たな物語の始まりに過ぎない。

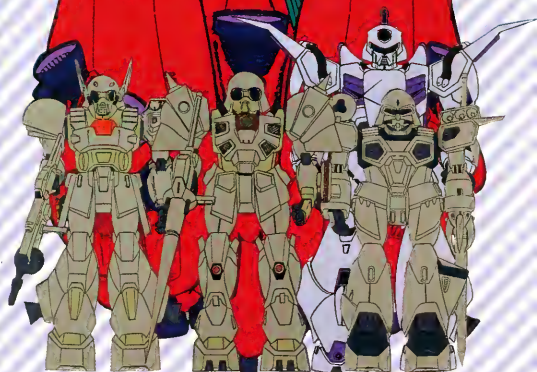
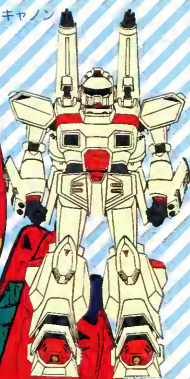
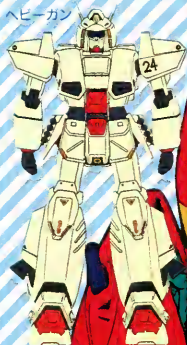
はるか後方、月を背にする空間には、連邦軍の増援部隊を退けたクロスボーン・バンガードのMS部隊が集結しつつある。



ヘビーガン

ラフレシア

G・キャノン

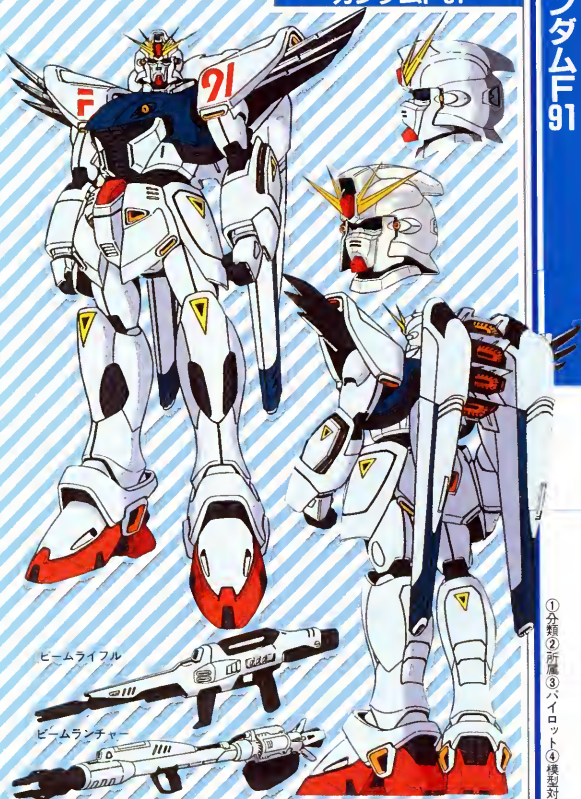


デナン・ゲ

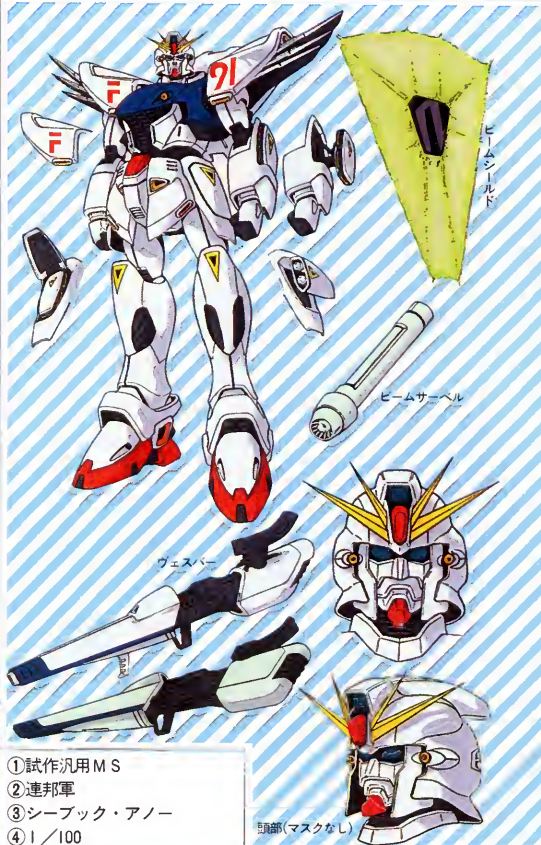
デナン・ゾン

エビル・S
ビギナ・ギナ

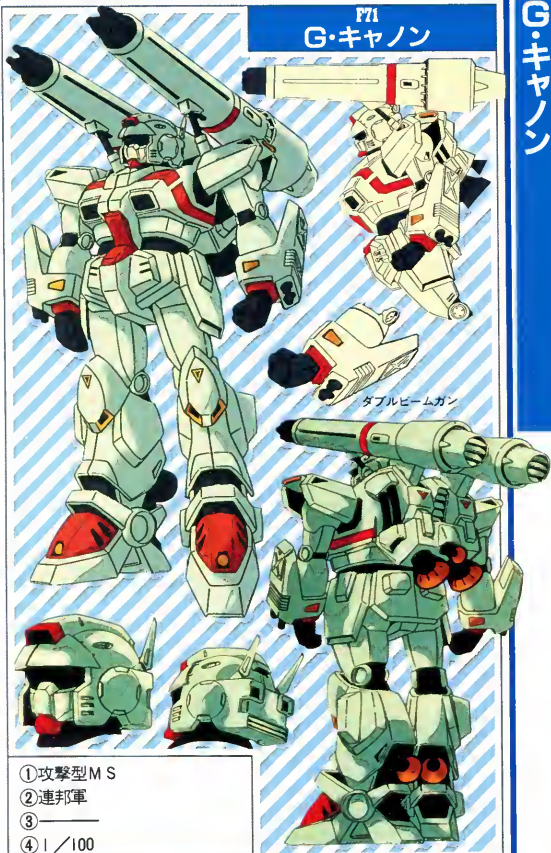
F91
ガンダムF91



①分類②所屬③パイロット④機型対応表



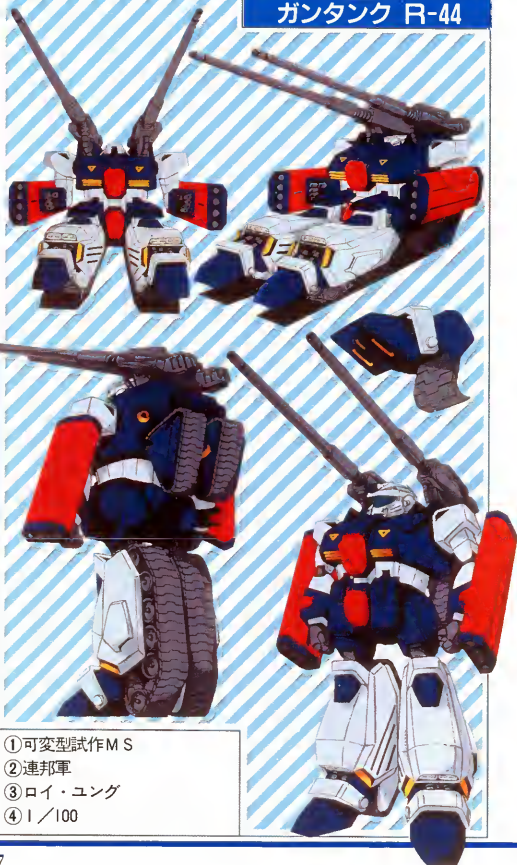
- ①試作汎用MS
- ②連邦軍
- ③シーブック・アノー
- ④1/100

F71
G・キャノン

ダブルビームガン

- ① 攻撃型MS
- ② 連邦軍
- ③ _____
- ④ 1 / 100

RXR-44
ガンタンク R-44



- ①可変型試作MS
- ②連邦軍
- ③ロイ・ユング
- ④1/100

RGM-109
ヘビーガン

ビームライフル

シールド

ヘッドライト

ビームライフル

- ① 戦闘型MS
- ② 連邦軍
- ③ ビルギット・ピリオ
- ④ 1/100

XM-07
ビギナ・ギナ

ビームランチャー

ビームシールド

ビームライフル

フィンノズル
(展開時)

- ①指揮官用試作型MS
- ②クロスボーン・バンガード
- ③ベラ・ロナ
- ④1/100

XM-05
ベルガ・ギロス

ザビーネ専用機

シェルブ
ノズル

ショウトランサー

一般指揮官用

- ① 指揮用戦闘型MS
- ② クロスボーン・バンガード
- ③ ザビーネ・シャル
- ④ 1/100

XM-06
ダギ・イルス

ビームライフル

シールド

連邦軍
増強機体色

- ① 指揮官用偵察型MS
- ② クロスボーン・バンガード
- ③ アンナマリー・ブルージュ
- ④ 1/100

XM-01
デナン・ゾンショット
ランサービーム
サーベル

①格闘型MS

②クロスボーン・バンガード

③———

④1/100



ビームライフル

XM-02
デナン・ゲール



- ①戦闘型MS
- ②クロスボーン・バンガード
- ③_____
- ④未定



バックパック

XM-04
ベルガ・ダラス



- ①指揮官用戦闘型MS
- ②クロスボーン・バンガード
- ③_____
- ④未定

XM-03
エビル・Sビーム
ライフル

クロー

シールド



- ① 偵察型MS
- ② クロスボーン・バンガード
- ③ _____
- ④ 未定

ブラック・バンガード



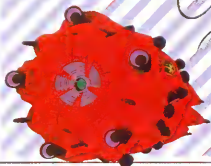
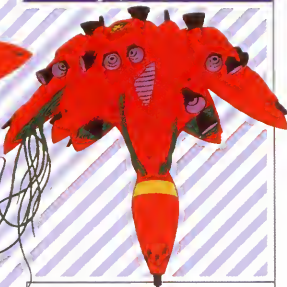
デナン・ゲー

エビル・S



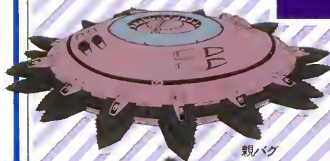
- ① 黒の部隊専用MS
- ② クロスボーン・バンガード
- ③ _____
- ④ _____

XMA-01
ラフレシア



- ①試作型MA
- ②クロスボーン・バンガード
- ③鉄仮面
- ④未定

バグ



親バグ



子バグ



- ①特殊兵器
- ②クロスボーン・バンガード
- ③無人
- ④未定

宇宙練習艦
スペース・アーク



- ①練習艦
- ②連邦軍
- ③老朽化した巡洋艦を練習艦として使用している。

宇宙駆逐艦
ザムス・ナーダ



- ①駆逐艦
- ②クロスボーン・バンガード
- ③小型だが機動性が高い。両舷にMSを載せられる。

スペース・アーク／ザムス・ナーダ

①分類②所属③備考

宇宙艦
ザムス・ガル



- ①旗艦
- ②クロスボーン・バンガード
- ③鉄仮面が乗る。ラフレシア、バグを搭載している。

宇宙戦艦
ザムス・ギリ



- ①戦艦
- ②クロスボーン・バンガード
- ③ザムス・ガルに次ぐ高性能を誇る。

宇宙巡洋艦
ザムス・ジェス



- ①巡洋艦
- ②クロスボーン・バンガード
- ③前後にMS用甲板を有する。艦隊の中枢を形成する。

ザムス・ガル、ザムス・ナーダ

ドワイト・カマリ



- ①フロンティアⅣ
- ②生徒会長
- ③子安武人

シーブック・アノー



- ①フロンティアⅣ
- ②F91パイロット
- ③辻谷耕史

アーサー・ユング



- ①フロンティアⅣ
- ②工学部機械科学生
- ③松野太紀

サム・エルグ



- ①フロンティアⅣ
- ②工学部電子科学生
- ③高戸靖広

ドロシー・ムーア



- ①フロンティアⅣ
- ②普通科学生
- ③折笠 愛

機動戦士ガンダムF91

リズ・アノー



- ① フロントニアⅣ
- ② シーブックの妹
- ③ 池元小百合

ペルー・ロドリゲス



- ① フロントニアⅣ
- ② リズのBF
- ③ 伊倉一恵

ジョージ・アスマ



- ① フロントニアⅣ
- ② 普通科学生
- ③ 西村智博

ロイ・ユング



- ① フロントニアⅣ
- ② 戦争博物館館長
- ③ 北村弘一

リア・マリーバ、ミゲン・マウジン
コチュン・ハイン



- ① フロントニアⅣ
- ③ 小林優子、吉田古奈美

ジョージ・アスマ、ロイユング

レスリー・アノー



- ① フロンティアⅣ
- ② シーブックの父
- ③ 寺島幹夫

モニカ・アノー



- ① サナリィ
- ② シーブックの母
- ③ 莊司美代子

シオ
フェアチャイルド



- ① フロンティアⅣ
- ② セシリーの義父
- ③ 大木民夫

マヌエラ・パノバ



- ① スペース・アーク
- ② 操艦担当
- ③ 鈴木みえ

ナント・ルース



- ① スペース・アーク
- ② メカニックチーフ
- ③ 大友龍三郎

レアリー・エドベリ



- ① スペース・アーク
- ② 艦長代理
- ③ 横尾まり

シオ・フェアチャイルド、マヌエラ・パノバ

グリス・エラス



- ①スペース・アーク
- ②メカニック
- ③竹村 拓

ビルギット・ピロ



- ①スペース・アーク
- ②MSパイロット
- ③塩谷 翼

バルド中尉



- ①連邦軍
- ②駐留軍人
- ③若本規夫

セシリー・フェアチャイルド(ベラ・ロナ)



- ①C・バンガード
- ②ロナ家長女
- ③冬馬由美

バルド中尉、セシリー・フェアチャイルド

ザビネ・シャル



- ① C・バンガード
- ② 黒の部隊指揮官
- ③ 梁田清之

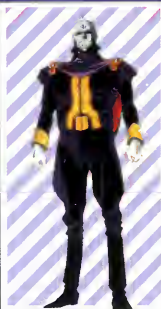
ドレル・ロナ



- ① C・バンガード
- ② ロナ家長男
- ③ 草尾 毅

鉄仮面

(カロッヅ・ロナ)



- ① C・バンガード
- ② 最高指導者
- ③ 前田昌明

マイツァー・ロナ



- ① C・バンガード
- ② ロナ家総師
- ③ 高杉哲平

ジレ・クリューガー



- ① C・バンガード
- ② 戦闘指揮官
- ③ 小林清志

アンナマリー
ブルーシュ



- ① C・バンガード
- ② 見習い仕官
- ③ 神代知衣

鉄仮面・マイツァー・ロナ



MS開発史

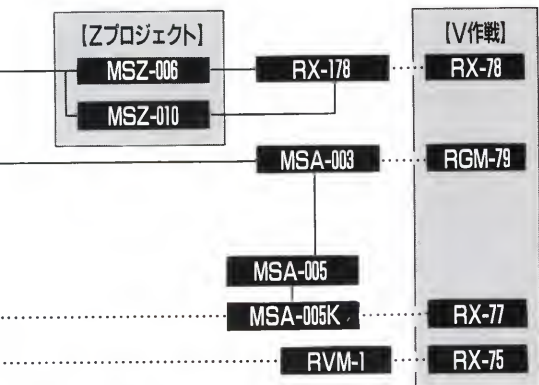
M. S. Development History

●UC 0070年代に誕生したモビルスーツは、その後、発展、分化して、数々のバリエーションを生みだし、その存在は、宇宙世紀において揺るぎないものとなっていった。そしてMSは、U C 0100年前後を境として、劇的な転換期を迎える。

モビルスーツの再生

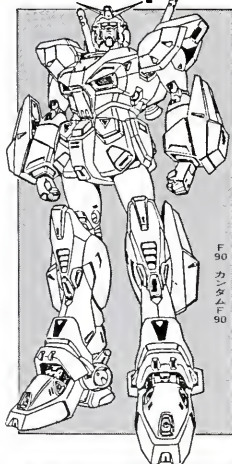
MSの誕生からすでに半世紀が過ぎていた。MSは、その開発当初から常に兵器として存在し、現在でもその用途に大きな変化はない。ただし、その機能は大きく拡大し、軍事的な行動には欠くことのできないものとなっていた。MSは、開発されてからさほどの時間を経ずして主力兵器の座を占め、半世紀の間、主力兵器であり続けた。そのために、より多くの機能を取り入れることによって、機体は巨大化の一途をたどった。それは同時に、周辺設備の逐次更新を必要とし、稼働、整備に要する人員も増大する一方で、MSの運用経費高騰を招いていた。また、量産ともなれば、

大規模な設備を要することもあり、MSの製造は巨大な軍産複合体に委託するほかはなく、最大手のアナハイム・エレクトロニクスなどによる一種の寡占状態が続いていた。宇宙世紀0100年をもって、地球圏の混乱を象徴するジオンの名を冠したサイド3が自治権を放棄したことにより、地球連邦政府は戦乱の消滅を宣言した。この時期、MSの新規開発製造は一部を除いてほとんど行なわれず、軍備費も削減される傾向にあった。無論、軍需産業の圧力もあって、MSの生産ラインそのものが閉鎖されることはなかったが、新型機の開発は停滞していた。この時期に大規



連邦軍製モビルスーツ開発経路

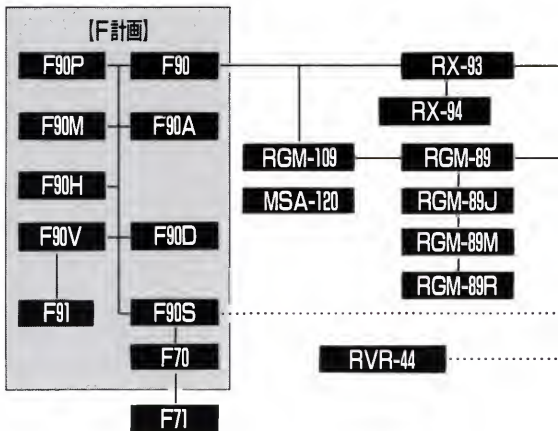
M. S. Development History



F 90
カシム F 90

模倣な戦闘がなかったことも、この状況に拍車をかけた。
MSの運用経費が高騰したのは、主に稼働設備の拡充を年度予算ごとに計上していたためでもある。さらに連邦軍では、獲得した予算枠を削減されないように、緊急に必要な当官が恣意的に更新し続けるという悪癖があったことも理由のひとつだろう。ともあれ、平常時において連邦軍という

組織は、人件費と年金を食い潰すだけの組織となっていた。以前より指摘されていた失業対策事業団としての色をより濃厚なものとしていたのだ。過去の経験から、連邦政府が軍事力そのものをなくすことは不可能であった。しかし、連邦軍は、政府に対して、経費削減をやってみせる必要が生まれた。
これがMSを小型化するに至ったおおむねの経緯である。



連邦軍の小型MS①

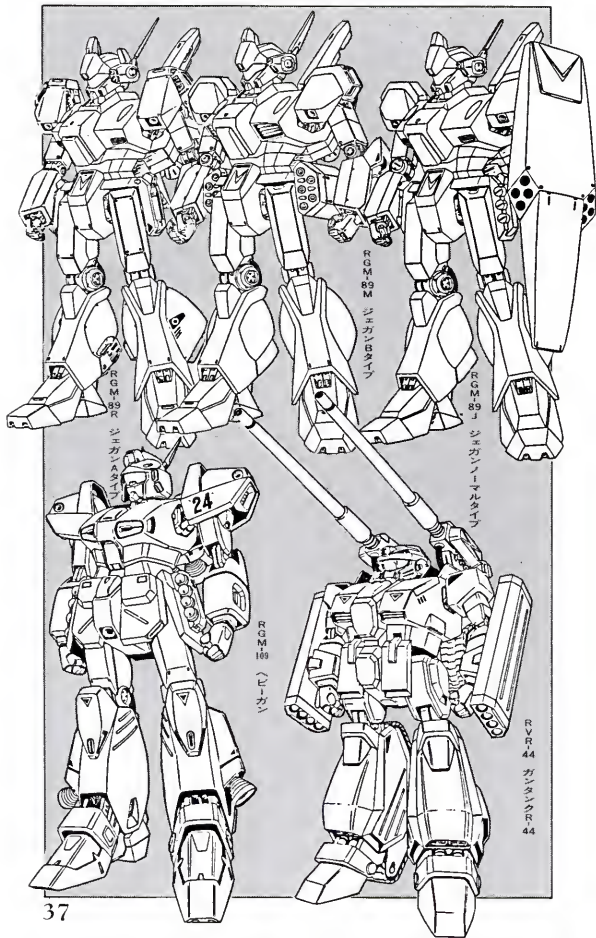
0090年以降にも開発され続けた量産機はRGM-89ジェガンのみで、ほぼ三十年の間、連邦軍の主力MSで有り続けた。これは、この機体の基本性能がある程度の水準に達していたからでもあるが、なによりも新規開発には莫大な費用が必要とされることが主な原因である。この機体は、かなりの頻度でマイナーチェンジを繰り返しており、各地に配備されるMSの供給はとりあえず可能だった。ところが、この機体をベースとした改良も、ほとんど限界に達していた。いくら仮想敵がいないう状況だといっても、これでは有事に備えることなど不可能である。軍内部でそういつ

た判断もあり、ジェガンの改良型を供給しつつ、新規開発を並行で進める方針がでた。諸経費削減がMS小型化の偽らざる理由ではあったが、これは、MS開発の現場でも、純技術的な側面から想定されていたことであつた。ことに、連邦軍に拘束されない研究機関の技術者達は、早くからMSの小型化を推進していたといわれている。機体の能力を向上させるための巨大化を始めとする悪循環は周知の事実であつたし、発想の転換が必要だということは、技術者間ではすでに確信済みだった。軍の方針としてMSの小型化推進が決定され、連邦傘下の技術者達もようやくMS小

型化実現に向けて研究することが可能となった。MSの小型化にあたって、MSを小型化する方法と、ミドル・MSなどを実戦に耐えるように改造する方法などが提案された。ガンタンクR-44などは後者の部類に入り、RX-78の支援機器として考案されたGブルと、可変MSの発想をまとめたものである。ただし、この時期の小型MSはコンセプトが流動的で、ことにこの機体は、現行MSの約半分というサイズだったため、ギラ・ドーガのスラスターなどを流用しており、動けばよいという程度のものでしかなかった。逆に、MSの機能をそのまま凝縮させなければ、性能を維持したままの小型化は不可能であるといふことの証明の一

端となり、正規の開発案からは除外された。その後開発されたのがRGM-109ヘビガンである。この機体は、とにかく小型化することに主眼が置かれ、各種アビオニクスもジェガンやガンダムของスケールダウンでしかなく、目標とされていた高性能な機体とはならなかったが、小型化によるメリットは確認することができた。また、総合的な評価ではジェガンを上回る側面もあり、次世代機までの橋渡しとして量産が行なわれることになった。そして、これらの小型の機体の開発が契機となり、連邦軍内部では、アナハイム・エレクトロニクスによるMS生産の独占体制を是正しようとする動きも出てきていた。

M. S. Development History



連邦軍の小型MS②

「性能を落とすことなく調達容易な小型MSを開発する」

これが次期主力MS開発の要諦であった。以前であれば実現が不可能であったこの課題も、技術的な裏付けを得たことによって実行に移された。

この時期に、MSの基本となる規格を改定することに異論もなかったわけではないが、

政府内部にも、アナハイム主導の新兵器開発という体制を是正しなければならないとする意見があり、連邦軍における武器調達を抜本的に見直すとうとする風潮ができたのである。そして、サナリイを始めとする連邦傘下の研究機関で、独自の研究も進められることとなった。F（フォーミュラ）

という呼称は、軍内部で進行しているプロジェクトの名称

であり、アナハイムに対する牽制の意味で、対外的には机上プランのみであるとしていた。だが、連邦の機密管理のずさんさから漏洩があり、急遽、MSのコンペティションという形で次期主力MSの選抜が行なわれることとなった。

結果的には、連邦の思惑どおり、F計画のMSが次期主力MSとして開発されることになったが、それまでの実績を持つアナハイムを兵器供給元から除外することもできず、F90Sタイプの量産型であるF70の量産をアナハイムに委託することで、問題の決着はかった。F71Gキャノン

そうして量産されており、設計はサナリイだが、製造はアナハイムで行なわれている。

そのため、ジェネレータやスラスタなどとはアナハイムによる既製品のものになっており、マッティングの問題からF70ほどの性能は達成できていない。しかし、推力重量比を始め、それまでのMSとは一線を画する性能を達成し、小型高性能MSという条件は十分に満たしていた。

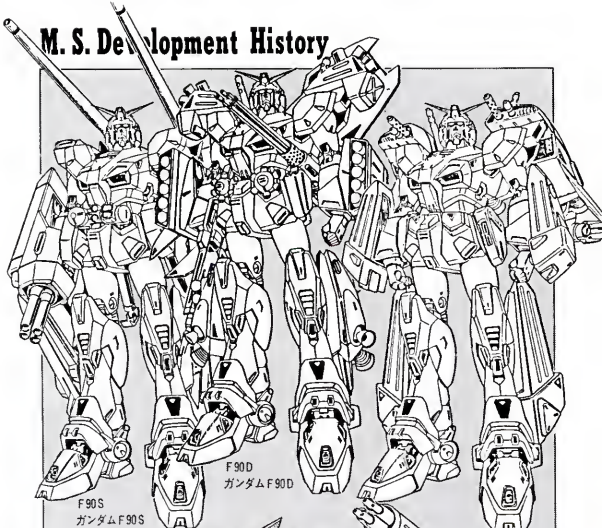
MSの小型化を想定して様々な試行錯誤が繰り返されるうち、MSの基本構造そのものを見直すプランも上程された。これが、ムーバブル・フレームでもモノコックでもないMCA構造（マルチプル・コンストラクション・アーマ）である。それまでのMS

は、構造材と装甲の間に各種電装品や稼働部品、プロペラントなどを内装しており、ことにTMSなどは構造の複雑さからメインテナンスに困難さを伴うようになっていた。

そこで、MSの小型化をシミュレートし、構造そのものを転換する発想が生まれたのである。機体を構成する各ブロックに、構造材であり、なおかつ装甲である役割を持たせ、機体そのものを軽量化する。

MSは、機動力が向上すれば被弾率を低下させられることは以前から指摘されていたが、実戦を想定した実効値は達成できなかった。しかし、このMCA構造の採用によって、実戦に耐えうる高機動MSが設計可能となった。それが、F91である。

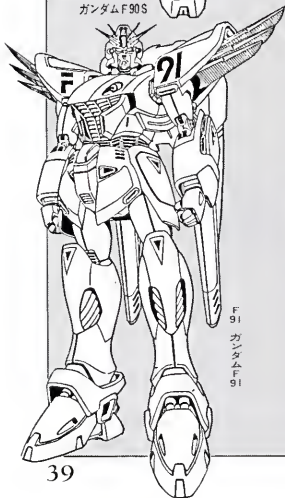
M. S. Development History



F90S
ガンダムF90S

F90D
ガンダムF90D

F90A
ガンダムF90A



F91
ガンダムF91



F71
Gケン

MS開発史

クロスボーン・バンガードの小型MS

C・V（クロスボーン・バンガード）では、連邦に先行してMSの小型化を実現していた。C・Vにおいては、経済性を度外視して高性能機を開発することができたからだ。それを可能にしたのは、C・Vが若い組織だったためもあるが、この組織の母体となったブッホ・コンツェルンが、ジャンク回収から航空、宇宙機の製造まで可能な企業を傘下に収めていたからこそできたことだった。一般での認知度がそれほど高い企業ではなかったが、MSの製造に必要な、あらゆる技術を持っていたのである。

C・Vにおいて、MSの小型化は至上命題であった。M

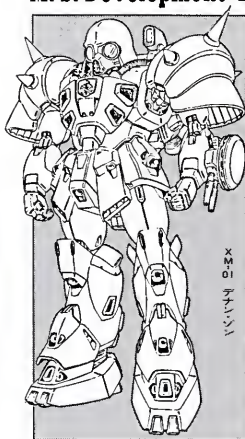
Sの高性能化と機体の大きさは必ずしも比例するわけではなく、逆に、レスポンスを向上させることで、既存のMSをはるかにしのぐ性能を獲得できるという結論は、対費用効果を考えた場合からも明らかだったからだ。そして、C・Vは、この時代にそれを可能とすることができたほぼ唯一の組織だったのだ。

連邦軍で、ジェガンタイプの改良型を審議していたころ、C・Vでは小型MSの試作機であるデッサタイプの製造が完了していたのである。ことに、C・Vにおいては、艦艇の調達も含め、MSが小型であることの有効性に早くから着目していたのだ。



クロスボーン・バンガード製モビルスーツ開発経路

M. S. Development History



ジェネレータを機体の外に設置し、総推力を機体各所に分散させ、推力重量比を見直したデッサタイプの試験結果は良好であった。この機体をもとにして、それぞれに必要な機能を選定し、一般用格闘型量産機であるデナン・ゾン及び、指揮官用格闘型のベルガ・ダラスが作られた。C・VにおいてMSは、機体が出来上がったから作戦にあてはめるのではなく、戦略に応じ

て開発されていた。それぞれ完成した機体をベースとしながらも、デナン・ゾンから一般用戦闘型であるデナン・ゲイを開発し、偵察用としてエビル・Sを開発した。また、C・Vで開発された戦闘、格闘用のMSは、コロニー内での戦闘を考えているため、敵であつても、MSの核融合炉を破壊しないように、シヨットランサーが装備されている。この武装は、先端部分がリニ

アガンと同じ原理で射出され、ガンダリウム合金の装甲さえ貫通させることができる。さらに、穂先が4ブロックに分割され、必要に応じて発射することができる。さらに、小型化によってジェネレータに余裕が生まれたため、攻防一体のビームシールドが装備可能となった。この装備は原理的にビームサーベルと同じもので、実体弾はもとより、ビーム兵器も防御することができ、武器にもなる。なによりも、必要に応じて展開できるため、機体を破損することもなくデッド・ウェイトとなることがない。そして、機体の持つ機動力を充分に発揮することができるメリットがある。この装備は、高性能のジェネレータの開発によって可能となった。MS開発に対する柔

軟な姿勢は、方針が定まりさえすれば着実な成果をあげることができるのだ。

ちなみに、C・Vは、必ずしも全くの極秘で小型高性能MSを作っていたわけではなかった。デナンタイプMSの開発そのものは、民間の専門雑誌などには紹介されていたのだ。事情通が、多少の憶測含みで、ブッホ・エアロダイナミクスなどによるMSの小型化達成は、何らかの思惑があるのではないかという論評を発表していたほどだ。ただし、これらの情報は、C・Vサイドからリークされたデイスインフォメーションである可能性も否定できない。C・Vは、情報に関して管理を徹底しており、万一不都合な情報が出た場合のシミュレーションも確立していたのだ。

クワボンバンガードの小型MSとA

ベルガ・ダラスには、デナンタイプをしのぐ機動性を確保するためのシエルフ・ノズルが装備されており、一般量産機とは一線を画していたが、ベルガ・ギロスには、さらに強化したものを搭載し、マニピュレーターの汎用性を向上させるため、ショットランサーを脱着可能としている。また、機体各所に装備されているアポジモーターのシェイプをも行なっている。

シエルフ・ノズルとは、C・Vが開発した、ジェネレータを外付けする発想をさらに発展させた可動式のスラストーである。ユニットそのものが持つ質量を利用したAMBACシステムとバーニアパイ

ンダーとしての機能を合わせ持っている。このコンセプトはビギナ・ギナにも受け継がれ、さらに改良されたフィン・ノズルとして採用されている。

フィン・ノズルは、構造的にジェネレータに直結しているため、エネルギーの伝達ロスが少なく、さらに効率的な稼働が可能となっている。ダギ・イルスは、ベルガ・ダラスから発展した機体で、電装機器を搭載した指揮官用偵察型MSである。通常のMSの5、6倍の情報処理能力を持っており、エビル・Sなどと数機のチームを組み、それらが収集したデータを統合することができ。さらに、精密なセンサーや電装機器に干渉する

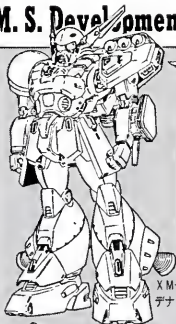
ビームシールドを搭載していないため、ジェネレータの余剰エネルギーのすべてを振り分けることによって、ビギナ・ギナをもしのぐ推力を獲得している。また、新開発のドッブラーレーダーを搭載しており、自機が移動中であっても高精度の索敵が可能である。

バグとラフレシアは、C・Vの指揮官である鉄仮面が独断で立案したシステムである。バグは対人感応殺傷兵器で、コロニーなどの施設を必要以上に破壊せず、熱感知、二酸化炭素反応、動体センサーなどを動員して人間のみを抹殺するように設計開発されている。親バグと呼ばれるユニットには、大型のチェンソーが24基装備され、ミノフスキークラフトとバーニアによって

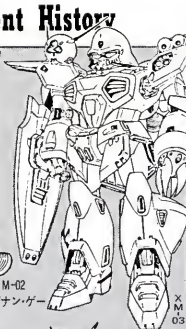
浮遊、回転し、車両や建造物

ごと、人間を殺戮する。親ユニットが入り込めないシエルターなどの施設には、親バグを二分割し、子バグと呼ばれるユニットを放出する。そして、8枚のブレードや本体の爆発によって、完璧に人間を殺戮する。ラフレシアは、カロツがC・Vに参画する以前から続けていた思考による機器操作、及び、意思感知の研究を昇華させたもので、ネオ・サイコミュとでも呼ぶべきシステムを搭載したモビルアーマーである。操作はすべて、パイロットの思考によって行なわれ、チェンソー及び独立バーニアを持つテナクラードが25本ずつ、5基のユニットに装備され、さらに、多数のレーザー砲をもつ。

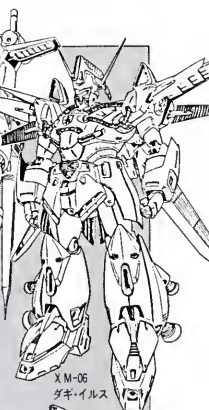
M. S. Development History



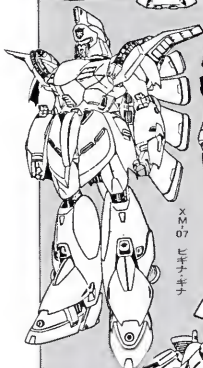
X M-02
デナン・ゲー



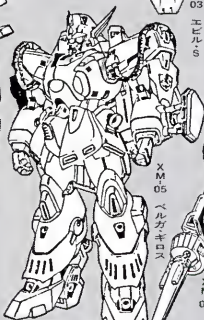
X M-03
エイルス



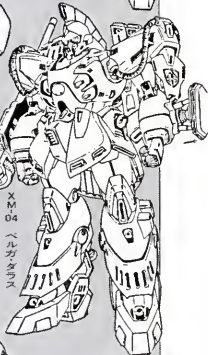
X M-06
ダギ・イルス



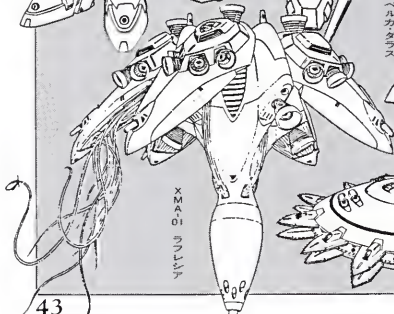
X M-07
ヒキナ・ギナ



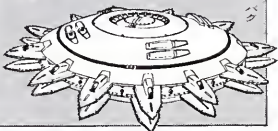
X M-05
ベルガ・ギロス



X M-04
ベルガ・ダラス



X M-01
ラフレイ



BURP

MS

【MS用語辞典①】

クロスボーン・バンガード・ニュータイプ

クロスボーン・バンガード

【CROSS BORN VANGUARD】

マイツァー・ロナによって組織された戦闘集団。新進気鋭の人間が集まり、独特のMSを駆使して戦う。少数精鋭で、士気、戦闘力ともに、倍以上の連邦軍をはるかに凌駕する。

リナリイ【L・ナ・リ】

フロンティアIに本拠を置く、軍の研究機関。正式名称は、海軍戦略研究所。Fシリーズから、軍の主力MSの開発に着手している。現在は、

F91を開発中。

シエルフ・ノズル

【SHELF NOZZLE】

MSの小型化に合わせ、ジエネレータを機体の外につけるといふ発想から生まれたコンセプトである。ひとつひとつのユニットに、スラストAIとしての移動能力と、AMBACシステムとしての方向転換能力を複合的に組み合わせたものである。

ショット・クロウ

【SHOT CROW】

エビル・Sの左腕の固定武

装。格闘戦のほか、とばして攻撃することもできる。

ショット・ランサー

【SHOT LANCER】

クロスボーンのMSが装備する特徴的な兵装。中世の騎士が携帯した槍に酷似したシルエットを持つ。これを持つと、クロスボーンのMSの騎士的な印象が、より強調される。

ダブルビームガン

【DOUBLE BEAM GUN】

G・キャノンの両腕に装備されている固定火器。キャノンを排除した時の格闘戦用に装備されている。

テンタクラーロッド

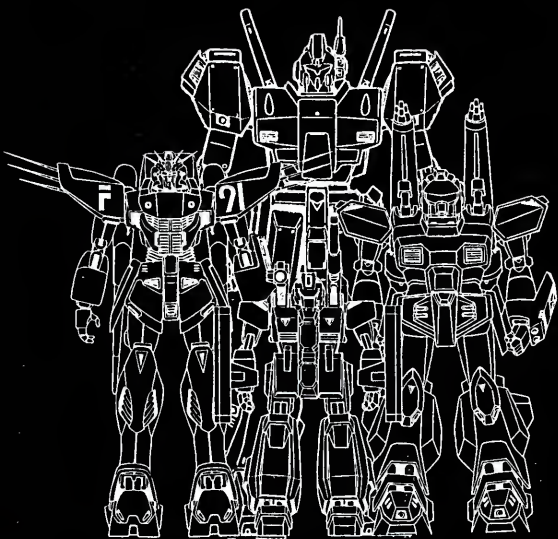
【TENTACULAR ROD】

ラフレシアに装備されている無数の触手。先端にチェイン・ソーとビーム砲が装備されている。パワーもかなりあ

り、MSを楽々とからめ捕ることができるといえる。

ニュータイプ【NEW TYPE】

一年戦争当時、人の革新として考えられた概念。その後、戦争が拡大すると、兵器を効率よく扱える人間として、道具として見なされる。これが、人造的なニュータイプ、強化人間を作り出すことになり、数々の悲劇を生む。宇宙世紀0123年当時には、ほとんど死語となっていて、たんなるパイロット特性の高い人間的な捉え方しかされていない。



MS性能比較

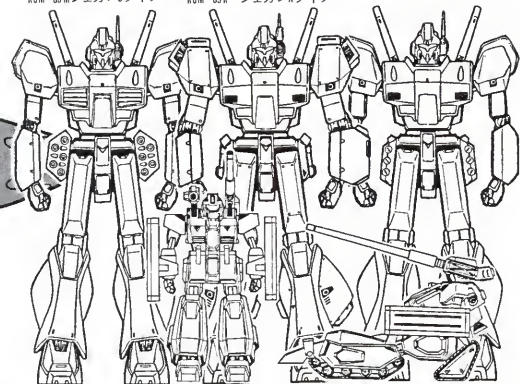
An Ability-comparison of M.S.

●UC0100年以降のMSは、その性能はもとより、外観上の特徴も、画期的な変遷を遂げることになる。それは、クロスボーン・バンガードの登場によって、より鮮明なものとなった。最新のMSのスペックを紹介する。

装甲材質	アポシモーター数	武 装
ガンダリウム合金 セラミック複合材	51(8)	バルカン砲×2、メガマシンキャノン×2、ビームサーベル×2、ヴェスパー×2、ビームシールド×1(1)、ビームライフル×1
ガンダリウム合金 セラミック複合材	50	バルカン砲×2、4連マシンキャノン×2、ダブルビームガン×2、ビームサーベル×2、ビームライフル×1
ガンダリウム合金	59	バルカン砲×2、4連グレネードラック×2、ビームサーベル×1、ビームライフル×1
不明	28	200ミリキャノン×2、4連ミサイルポッド×2、フィンガーランチャー×10
チタン合金 セラミック複合材	20	バルカン砲×1、3連グレネードラック×2、4連ロケットランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライフル×1
チタン合金 セラミック複合材	30	バルカン砲×2、2連グレネードラック×1、4連ロケットランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライフル×1
チタン合金 セラミック複合材	22	バルカン砲×1、5連ロケットバック×2、4連ロケットランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライフル×1

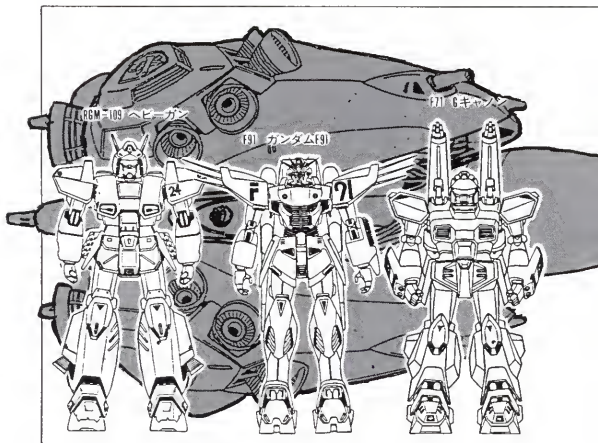
RXR-44 ガンタンクR44

RCM-89M ジェガン8タイプ RCM-89R ジェガンAタイプ RCM-89J ジェガンノーマルタイプ



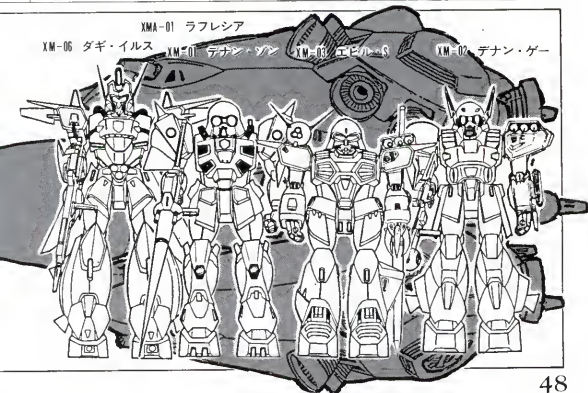
MS・MA性能比較

名称(愛称)	形式番号	頭頂高(m)	本体重量(t)	全備重量(t)	ジェネレータ出力(kW)	スラスター推力(kg)
ガンダムF91	F91	15.2	7.8	19.9	4250	15530×4 4380×6
Gキャノン	F71	14.3	8.7	23.1	3350	27840×2 16790×2
ヘビーガン	RGM-109	15.8	9.5	23.5	2870	21250×2 9940×4
ガンタンク R-44	RXR-44	10.3	8.7 (推定値)	11.8	1050	14000×1
ジェガン ノーマル タイプ	RGM 89J	19.0	22.8	49.7	2430	55870×1 14290×4
ジェガン Aタイプ	RGM-89R	19.0	23.1	51.9	2730	57160×1 12320×8
ジェガン 8タイプ	RGM-89M	19.0	23.4	51.6	2430	69840×1 15290×2 12270×2



2、クロスボーン・バンガードのMS

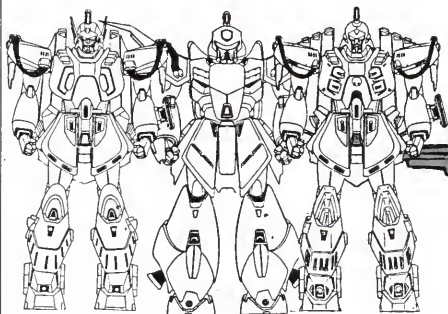
装甲材質	アポジモーター数	武 装
チタン合金 ハイセラミック 複合材	84	ショットランサー×1、ヘビーマシンガン×2、デュアルビームガン×1、ビームシールド×1、ビームサーベル×1
チタン合金 ハイセラミック 複合材	76	ビームライフル×1、ビームガン×1、ビームシールド×1、ビームサーベル×1、3連グレネードラック×1
チタン合金 ハイセラミック 複合材	66	ショットランサー×1、ヘビーマシンガン×4、ビームスプレーガン×1、4連ショットクロ×1(1)、ビームサーベル×1、3連グレネードラック×1
チタン合金 ハイセラミック 複合材	82	ショットランサー×1、ヘビーマシンガン×2、ビームシールド×1、ビームサーベル×2
チタン合金 ハイセラミック 複合材	73	ショットランサー×1、ヘビーマシンガン×4、ビームシールド×1、ビームサーベル×2
チタン合金 ハイセラミック 複合材	87	ビームライフル×1、3連拡散ビーム砲×1、ビームサーベル×1
チタン合金 ハイセラミック 複合材	87	ビームライフル×1、ビームシールド×1、ビームサーベル×2
チタン合金 ハイセラミック 複合材	40(本体)	メガ粒子砲×5、メガビームキャノン×5、ビームキャノン×4、拡散ビーム砲×8、テンタクラード×125



MS・MA性能比較

名称(愛称)	形式番号	頭頂高(m)	本体重量(t)	全備重量(t)	ジェネレータ出力(馬)	スラスター推力(kg)
デナン・ゾン	XM-01	14.0	7.9	17.4	3880	17310×1 8520×2 4460×4
デナン・ゲー	XM-02	13.9	7.1	19.2	4020	17790×2 8700×2 11030×2 1340×4
エビル・S	XM-03	13.2	6.8	16.7	3090	22540×2 11390×2
ベルガ・ダラス	XM-04	15.8	9.3	22.1	4530	22500×2 8950×3 3460×6
ベルガ・ギロス	XM-05	15.7	9.1	22.7	4790	21820×2 8950×3 3460×8
ダギ・イルス	XM-06	15.0	9.7	22.5	3620	25540×2 11030×2 8950×3
ビギナ・ギナ	XM-07	15.8	8.9	22.5	4790	22950×2 8950×2 4490×8
ラフレシア	XMA-01	37.5	184.6	263.7	31650	52020×5 43350×5 28900×20

XM-05 ベルガ・ギロス XM-07 ビギナ・ギナ XM-04 ベルガ・ダラス



MSS

(MS用語辞典②)

バイオコンピュータ・ビームランチャー

バイオ・コンピュータ

【BIO COMPUTER】

人の意志を受け、さまざまな機器を制御し、思い通りに操るためのシステム。障害者のために考えられたものだが、軍の資金が導入されたことにより、サイコミュに代わるMSの制御系として、研究されている。F99にも試験的なシステムが導入されている。

ハイブリットデュアルセンサ

—【HYBRID DUAL SENSER】

クロスボーン・バンガード

のMSの頭部センサー。ゴーグル状の後ろに、複合的なセンサーが装備されている。宇宙空間の戦闘時において重要な距離感、及び立体的な解析能力が優れている。ジョーン系のMSに装備されていたモノアイに比べ、能力は数倍になっている。

ビーム・シールド

【BEAM SHIELD】

0123年時期のMSは、用兵の基本概念に立ち返り、機体が小型化している。それに合わせ、ジェネレータが高

性能化し、出力に余裕ができた。そのため、機体の防御をビームで行なうという方式が装備された。これは、Iフィールドによるビームに関する防御ではなく、サーベルと同じ形式のビームを発生させ、ビーム兵器だけでなく、通常実体弾をも防ぐものである。これの採用により、MSは防御力の向上だけでなく、攻撃のロスをも解消する。

ビーム・フラッグ

【BEAM FLAG】

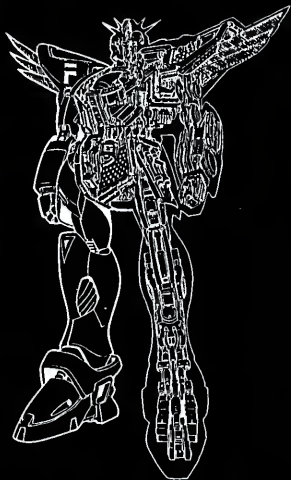
クロスボーン・バンガードの指揮官機に装備されている。背部にビームによる旗を形成し、自分の部隊の紋章を掲げる。宇宙空間では自軍の所属機に対する目印になる反面、敵軍からは恰好の目標にされる。しかし、コスモ貴族主義による騎士道精神を尊ぶ、ク

ロスボーン・バンガードの軍人たちは、むしろこれを誇りとしていた。

ビーム・ランチャー

【BEAM LAUNCHER】

ハイパー・バズーカ系の実体弾砲にかわり、MS用の大型火器として採用された。複数のビーム兵器を使用できるのも、ジェネレータが高性能、高出力化したためだ。低速だが破壊力の高いビームを発射する。



ガンダム オフィシャル レポート

GUNDAM Official Report

●地球と宇宙に住む人々が、ジオンという見果てぬ、あるいは忌まわしい夢を、ようやく忘れかけたころ、ふたたび動乱の時代が幕を開けた。クロスボーン・バンガードの成立とその背景、連邦政府の宇宙移民に対する対応など、宇宙世紀の新たな時代を解説する。

歴史

History

U.C.0094~0123

地球連邦政府

宇宙世紀0093年に起きた「シャアの反乱」以来、大規模な軍事行動を伴う騒乱はなかった。連邦政府は、地球圏の混乱は消滅したと考えた。宇宙移民者の欲求を代弁することを標榜する組織や運動があらわれては消えていったが、それらは決して大勢に影響を与え、情性の中で時間と資源を浪費し続け、人類のほとんどが宇宙を生活の場としているにも関わらず、地球を疲弊させること以外できなかった。連邦政府の官僚も政治家たちも、宇宙世紀はどういう時代であるかということを目問することはなくなっていた。

宇宙世紀0123年、フロンティアサイドが襲撃を受け



有事であるにもかかわらずリゾート地で安穩としている連邦政府高官。

イラスト/たけばしんご

でも、連邦政府は駐留軍に対して何の指示も出さなかった。C・Vの襲撃は宇宙移民者同士のケンカでしかなく、反地球連邦組織が暴走した程度のものでしかないだろうと、たかをくくっていた。コロニーに駐留している連邦軍人たちは、独自の判断で行動を選ばず、駐留軍は、援軍を言い訳程度に派遣するが、C・Vによって壊滅させられてしまう。

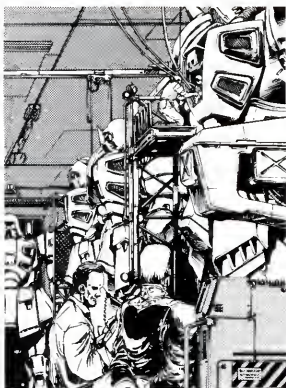
History

年・月・日	事 柄
1957・10・04	人類初の人工衛星、打ち上げに成功（ソ連）
1961・04・17	有人人工衛星成功（ソ連）
1969・07・20	アポロ11号、月面着陸に成功（アメリカ）
1969	G・K・オニール博士らのグループが、スペースコロニー構想を発表
1990～	世界各地で局地戦争多発。第3次世界大戦の危機感が強まる。
1999	地球連邦政府樹立。人類宇宙移民計画発表。
2005	太陽発電衛星第1号機の打ち上げに成功。
2009	地球連邦軍設立。
2026	木星エネルギー船団、月軌道上より発進。
2045	第1号コロニーの建造が開始される。
U・C 0001	宇宙移民開始をもって宇宙世紀に移行。地球総人口、90億突破。
0027	初の月面恒久都市、フォンブラウン市が完成。
0040	総人口の40%（約50億人）が、宇宙への移民を完了。
0045	小惑星ユノー（ルナツー）月軌道に定着。サイド3にミノフスキー物理学会設立。
0050	総人口は110億に達し、そのうち90億が宇宙に移民。
0055	プッホ・コンツェルン創業。
0058	ジオン・ズム・ダイクン、サイド3独立宣言。ジオン共和国樹立。国防隊発足。
0059	連邦政府、サイド3に対して経済圧力を加える。
0060	連邦軍、60年代軍備増強計画発動（特に宇宙艦隊の統制に力を注ぐ）。ルナツーの軍事基地化が行なわれる。
0062	ジオン国防隊、国軍へ昇格
0068	ジオン・ズム・ダイクン死亡（暗殺の可能性あり）。次期首相はデギン・ソド・ザビ。プッホコンツェルン、旧欧州の名家ロナ家の名を購入。
0069・08・15	ジオン公国宣言。デギン・ソド・ザビ、公王に。ザビ家独裁体制のため、ジオン派は追放。ミノフスキー粒子の存在が実証される。
0070・03	公国軍、ミノフスキー粒子散布による電波妨害などの特殊効果～ミノフスキー効果～確証実験に成功。
0070・05	公国軍、メガ粒子砲を完成。
09	連邦軍、70年代軍備増強計画によるサラミス、マゼラン級の新型宇宙艦艇就役。
12	サイド7建設のため、ルナツーを月軌道の反対側へ移動。
0071	ジオン公国軍兵器開発局、ミノフスキー粒子散布下における新型兵器の開発に着手。ミノフスキー物理学応用による小型核融合炉の1号機完成
0072	ジオン公国、アステロイドベルトに小惑星基地アクシズを建設。
0073	公国軍、新型兵器1号機完成。MS-01の形式番号と、モビルスーツ(MS)という呼称を与えられる。
0074・02	公国軍、ミノフスキー型核融合炉搭載のMS-05ザクⅠの試作型ロールアウト。
0075・05	公国軍、MS-05ザクⅡの実戦型ロールアウト。
07	公国軍、ムサイ級軽巡洋艦の一番艦就役。
0076	公国軍、地球侵攻作戦を前提とした局地戦用MSの開発に着手。
0078・01	公国軍、ザクの強化型、MS-06ザクの量産を開始する。
05	サイド7第1号コロニー、未完成ながら移民が開始される。
10	ジオン公国、国家総動員令発令
0079・01・03	一年戦争勃発。ジオン公国、地球連邦政府に対し独立戦争を挑む。宣戦布告と同時にサイド1、2、4へ奇襲敢行。ABC兵器無差別投入。コロニーの落下により、大規模な気象変動を惹起。1・3～1・10までの戦闘を一週間戦争と呼ぶ。この期間の戦闘で総人口の25%に相当する30億人が死亡）
01・11	サイド6中立宣言
01・15	ルウム戦役。連邦軍宇宙艦隊敗北。公国軍は艦隊司令のレビル將軍を捕虜とする。
01・31	南極条約締結。
02・07	公国軍、地球侵攻作戦開始。北米、中米、東アジア、ヨーロッパの各都市に衛星軌道上から直接降下部隊を送り込む。（2～3月の期間に公国軍は全大陸の3分の2を勢力下に置くが、両軍ともに戦力衰退。戦局は膠着状態に陥る）
03	公国軍、占領した地域の施設を使い戦力を増強。
04	連邦軍、新型MSと専用強襲母艦の開発・建造を目的としたV作戦、失われた宇宙艦艇の量産を目的としたビンソン計画を同時に発動させる。
05	宇宙要塞ソロモン完成。
06	公国軍、宇宙要塞ア・バオア・クー、ソロモン、月面基地グラナダを結んだ本土防衛ライン完成。フラナガン機関の設立。
07	連邦軍、ビーム兵器の小型化に成功。連邦軍の新造艦ホワイトベース（WB）進出。RX-78ガンダム試作第1号機、ロールアウト
08	連邦軍製試作型MS、サイド7で最終テスト開始。北米オーガスタ連邦軍基地において、RX-78-NT-1の開発が開始。
09・18	公国軍の特務部隊、サイド7を強襲。コロニー内部で史上初のMS同士の戦闘WB、破壊を免れたMSを収容し南米のジャブロー基地に向け出航。

クロスボーン・バンガード

C・V（クロスボーン・バンガード）は、マイツツアー・ロナを総帥とし、鉄仮面によって統率される戦闘集団である。この組織は、いわゆる政治結社の側面を持っており、連邦政府の腐敗と一般市民の墮落を正そうとしている。

宇宙世紀に入り、半世紀が過ぎたころ、C・Vの母体となるブッホ・コンツェルンが、マイツツアーの父、シャルンホルスト・ブッホによって創業された。そして、その後の多くの戦争のため生まれた艦船やMS、コロニーなどの残骸の回収、再生、再資源化などで、ブッホ・コンツェルン

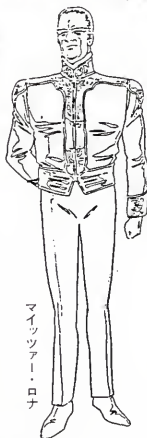


イラスト／たけはしんこ

連邦のMSをはるかにしのぐ性能を持つC・Vの小型MS

の業務は拡大していった。ただそれだけならば、ベルガミノやスタンバ・ハロイなどのいわゆる戦争商人と変わることはなかったかもしれないが、ブッホは違った。気骨のあるポリシーを持ち、何事に対しても潔かった。そして、息子達に自分の理想を語った。その薫陶を受けたマイツツアーは、なによりも宇宙世紀を俯瞰することができた。マイツツアーは、父が旧世紀の欧州の名家である、ロナ家の名を買ったことの意味を充分に知り、それを継承した。そして、その夢に向けて着実に準備を進め、整え、機会を待った。

宇宙世紀0123年。その時が訪れた。



マイツツアー・ロナ



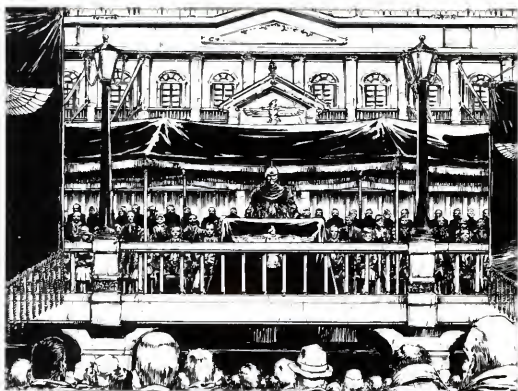
鉄仮面（カロツン）

Histry

年・月・日

事 柄

10	連邦軍の各工場でMSの量産開始。公国軍、対抗のため新型機を次々に実戦配備。MS用ビームライフル、サイココミュニケーションシステムの試作型を開発。
10-04	ニューヨーク市において地球攻撃軍司令官ガルマ・ザビ、戦死。
10-06	ギレン・ザビ、全地球規模の大演説を展開。
11-07	連邦軍、オデッサ作戦始動。3日間の戦いの末、連邦軍の勝利に終わる。これによって地球上のミリタリーバランスは一変する。
11-30	(連邦軍、11月後半から量産型MS、RGM-79ジムの実戦配備を開始する)
12-14	公国軍のジャブロー攻撃失敗。ジオン軍地上戦力の崩壊に拍車がかかる。
12-05	連邦軍、星1号作戦発動。
12-21	連邦軍、アフリカ、北米で公国軍掃討戦を展開。
12-24	公国軍、連邦軍北極基地襲撃。
12-30	ソロモン攻略作戦開始。公国軍敗退。宇宙攻撃軍司令官ドズル・ザビ中将戦死。
12-31	デギン公王、ソーラ・レイ・システムにより死亡。連邦軍はレビル艦隊を喪失。ア・バオア・クー攻防戦。要塞内において、ギレン・ザビ総帥、キシリア・ザビ少将とともに戦死。連邦軍の勝利に終わる。
0080-01-01	一年戦争終結。月面のグラナダにおいて、地球連邦軍とジオン共和国の間に終戦協定が締結される。
0080-06	アフリカ戦線の旧公国軍、武装解除。
0081-03-14	ブッホ・コンツェルン、利益の公共還元として職業訓練校を設立。
03-28	旧公国軍の残党、小惑星基地アクシズに到着。
05-05	ドズル・ザビ夫人(ゼナ)、アクシズで病死。
10-13	連邦軍再建計画が連邦議会でも可決。
0082-04	連邦軍、ニュータイプ研究機関の設立を決定。
0083-08-09	アクシズの指導者、マハラジャ・カーン死亡。
08-11	ハマーン・カーン(当時14歳)、ミネバ・ザビの摂政役に就任。
09	アクシズ、新合金“ガンダリウム・ガンマ”の開発に成功。
10	オーストラリアのMS実験基地、旧ジオン残党デラース軍に奇襲攻撃を受ける。
12-04	ジャミットフ・ハイマン提唱によりティターンズ結成。旧公国軍残党狩り活発化。
0084-06-17	連邦議会、地球圏の現状維持を発表。
07-08	ブッホ・コンツェルンの球形コロニー完成。
09-21	シャア・アズナブル、地球圏に帰還。非合法で連邦軍の軍籍を得る。
0085-07-31	30パンチ事件。ティターンズがサイド1・30パンチに毒ガスを注入し住民を虐殺。反地球連邦運動(A・E・U・G)活発化。
09-08	グリプス2、サイド7に建設される。
0086-02-06	アクシズ、地球圏に向けて発進。
0087-03-02	エウーゴ、グリプス1より試作MS3機を強奪。
04-29	最後の木星エネルギー輸送船ジュピトリス地球圏に帰還。
05-11	エウーゴ、地球連邦軍ジャブロー基地を攻撃。
06-29	ティターンズ、ホンコン・シティを襲撃。
08-10	ティターンズ、アポロ作戦発動。フォン・ブラウン市を襲撃。
08-17	エウーゴの指導者、ブレックス・フォーラ准将暗殺。
10-12	アクシズ、地球圏に帰還。
11-16	エウーゴ、ダカールの連邦議会を占拠。全世界にティターンズの悪を訴える。
12-07	ティターンズ、グリプス2のコロニーレーザーでサイド2・18パンチを破壊。
12-14	ティターンズ、サイド2・21パンチに毒ガス攻撃。住民は全員死亡。
0088-01-18	アクシズ、セダンの門の旧ア・バオア・クーを破壊。
02-02	エウーゴ、メルシュトローム作戦発動。艦隊戦によりグリプス2を占拠。
02-22	エウーゴ、アクシズ、ティターンズによる艦隊戦。ティターンズ敗北。コロニーレーザー破壊。エウーゴ戦力の過半数喪失。シャア・アズナブル行方不明。
02-24	惑星ベズンにおいて、ティターンズ教導部隊の一部青年将校が“ニューディサイズ”を名乗り反乱を起こす。
02-29	ネオ・ジオン、各サイドに制圧部隊を送る。
03-23	連邦軍、ニューディサイズ討伐隊前衛艦隊α任務部隊を編成。
03-28	ベズン、占領部隊の核爆弾により爆発。エイノー艦隊、ニューディサイズと合流。
03-29	エイノー艦隊、月裏面のエアーズ市に降下。
04-01	エアーズ市上空で攻防戦、FAZZ部隊全滅。
04-02	エアーズ市武装解除。ニューディサイズ、ジオン残党のトワニング隊と合流。
04-04	ニューディサイズ、低軌道中継ステーション、ペンを制圧。
04-05	α任務部隊、任務終了。
06-06	[ティターンズの反乱(グリプス戦争)] 終結
08-01	ネオ・ジオン、先遣部隊を地球に降下させる。
08-29	ネオ・ジオンの本隊、地球侵攻。
10-31	ネオ・ジオン、ダカールを占拠。旧公国軍、ティターンズ残党を配下に治める。ネオ・ジオン、ダブリンにコロニーを落とす。



フロンティアⅣ政庁前におけるクロスホーン・パンガードによるコスモ・バビロニア宣言。

イラスト／たけばしんこ

コスモ・バビロニア

コスモ・バビロニアとは、C・Vが理想とする、宇宙世紀にふさわしい人類の有りようを示す国家の名である。マイツァーをはじめとするロナ家を中心として、民衆の手本たることを自らに課し、社会的な問題や構造を変革することを国是としている。彼らは、ふさわしい人々によって指導される社会を実現し、人類を総体として永遠に存続させることを究極の目的とするコスモ貴族主義を掲げ、ロナ家千年の夢としている。

C・Vは、フロンティアⅣの襲撃により歴史の表舞台に登場した。しかし、これは突然に起きたことではなく、始祖であるブツホの時代から進められてきた遠大な計画でも

あった。ブツホ・コンツェルンは、表向きは通常の企業体で、アナハイム・エレクトロニクスとの取り引きもあった。また、マイツァーの血縁には優秀な者が多く、政治や経済、宗教の側面から、直接、間接にC・Vを支援していた。C・Vがフロンティアサイドを襲撃したのも偶然ではなく、建設段階から予定されたものだったという憶測も、根拠のないものではない。C・Vは、木星資源採掘船サウザンズ・ジュピターの協力をも取り付け、制圧したフロンティアサイドにおいてコスモ・バビロニアを宣言し、連邦政府に対して叛旗を翻した。無作為殺戮を独断で指揮した鉄仮面は敗れたが、C・Vは、初期の目的を果たした。地球圏は再び混乱の時代を迎えたのだ。

Histry

年・月・日	事 柄
11・14	連邦政府、サイド3をネオ・ジオンに譲渡。ネオ・ジオンの戦力、地球より撤退。
12・25	ネオ・ジオン内でグレミー軍が謀反。
0089・01・16	アクシズ、コア3に激突。
17	エウゴ、ネオ・ジオンを制圧。ハマーン・カーン戦死。ミネバ・ザビ行方不明。[ハマーン戦争(第1次ネオ・ジオン抗争)] 終結。
03・15	木星エネルギー輸送再開。ジュピトリスII発進。
05・01	連邦軍、高質量アステロイドの管理体制を再編成。
08・25	連邦軍、スペースノイド寄りのコロニーに対し経済制裁等の引き締め強化。
0090・01・02	エグム、NSP等、反地球連邦組織の活動活発化。
03	難民収容施設として、スウィート・ウォーターを改造
07・15	連邦軍、外郭新興部隊ロンド・ベル隊設立。
10・15	NSPのカラード隊、サイド6、再建中のテキサスコロニーを襲撃。
11・23	サイド2でアラハス隊とカラード隊、戦闘。
12・15	民間会社モノトーンのスタッフが連邦軍のテストパイロットに抜擢。
0091・02・06	NSP機健康、アラハスと合流。ネオ・ジオンの過激派偽装陽動部隊と交戦。
02・27	NSP解散宣言。
0092・08・12	過激派偽装陽動部隊、木星へ。
12・13	連邦軍、本部をチベットのラサへ移動。
12・22	ネオ・ジオン、地球連邦軍に対し攻撃を示唆。
12・25	シャアを総帥とする艦艇、スウィート・ウォーターの占拠を宣言。
0093・02・27	連邦軍、ロンド・ベル隊を増強。
03・03	ネオ・ジオン総帥のシャア、インタビュー番組内で事実上の宣戦布告。
03・04	ネオ・ジオン艦隊スウィート・ウォーターを発進。
03・06	5thルナ、連邦軍本部所在地チベットのラサに激突。
03・12	ネオ・ジオン軍と連邦軍、サイド6、ロンドニオンにおいて、極秘裏に和平交渉。
0100・01・03	ネオ・ジオン艦隊、投降を偽装しアクシズを奪回。地球へ降下させるが失敗。[アクシズ戦争、シャアの反乱(第2次ネオ・ジオン抗争)] 終結。
0104・02・28	連邦軍、ジオン共和国の自治権放棄をもって、戦乱の消滅を宣言。
0105・04・09	反地球連邦組織「マフティー」軌道上の監視用人工衛星を破壊。
04・19	地球上の連邦軍増強。地球上のマン・ハンター組織や、不法居住者摘発を強化。
04・20	ミノフスキー・クラフト搭載のMSベネネロー月面からオーストラリアに移送。
04・21	マフティーを標榜する活動家によるシャトルハウンゼン乗取り未遂事件。
04・26	マフティー、オーストラリアのホテルを襲撃。Ξ(クスイー)ガンダム地球へ。
04・26	Ξガンダムとベネネロー、インドネシアのハルマヘラ島沖で交戦。
04・27	「マフティー」オーストラリアのアデレートで行なわれる連邦の中央閣僚会議粉砕を告知。「連邦政府調査権の修正法案」破棄をもとめて会議場を襲撃。しかし、会場周辺に設置されたバリアーによって、Ξガンダムは殲滅。一連の反地球連邦運動の首謀者、マフティー・ナビユ・エリン逮捕。法案は可決。
05・01	第十三独立部隊、アデレートに到着。
0105・06・01	反地球連邦組織のリーダー、マフティー処刑。
0106・01・04	連邦軍、反地球連邦組織に対する弾圧強化。反地球連邦運動、表面的には鎮静化。
0110・04	新規のコロニー建設再開決定。プッホ・コンツェルン内の職業訓練校及び周辺企業の選抜メンバーによる組織が編成される。極秘裡にC・V設立。
0111・10	エンゲイスト・ロナ、コロニー公社副総裁に。
12	連邦軍、次期主力MS開発を決定。サナリイ社のF(フォーミュラ)シリーズが、アナハイム・エレクトロニクス社を破り、制式採用となる。
0113・04	フロンティアサイド(旧サイド4)再建開始。
0116・05	ハウゼリー・ロナによる「地球保全法案、過当医療廃止法案」廃案となる。
0117	ラフレシアプロジェクト構想始動。「地球保全法案」再提出。
0118	プッホコロニー、一般民間人にも解放。
0119	ハウゼリー・ロナ暗殺。
0120・10・25	ラフレシアプロジェクト発動。
28	ジュピトリス緩輸送艦「コバヤシ丸」、謎のMS部隊の襲撃を受ける。
0123・03・16	サイド4空域でテスト飛行中のF-90の試作機が謎のMS部隊に強奪される。C・Vを名乗る謎のMS部隊がフロンティアサイドを襲撃。フロンティアIVの住民五百人以上が死亡。14万人が避難。
19	C・V、フロンティアII、IIIを襲撃。
22	フロンティアII、IIIを制圧。
24	サウザンズ・ジュピター地球圏に到着。C・Vによって拉致されるが、艦長は協力を確約。
26	C・V、フロンティアIVにおいてコスモ・バビロニアを宣言。
30	C・Vの鉄仮面、独断でフロンティアIにおいてバグ及びラフレシアを稼働させ、コロニーシリンドラー内の住民を虐殺。連邦軍のF91によって撃破される。
31	C・Vのドレル大隊、ザビーネ隊など、コスモ・バビロニアへ凱旋。

機動兵器

Mobile Weapon

U.C.0100～—123

F計画汎用試作型MS

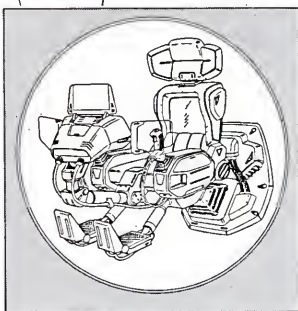
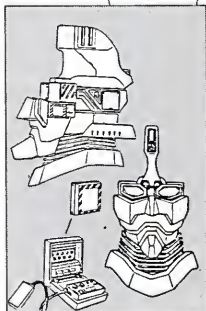
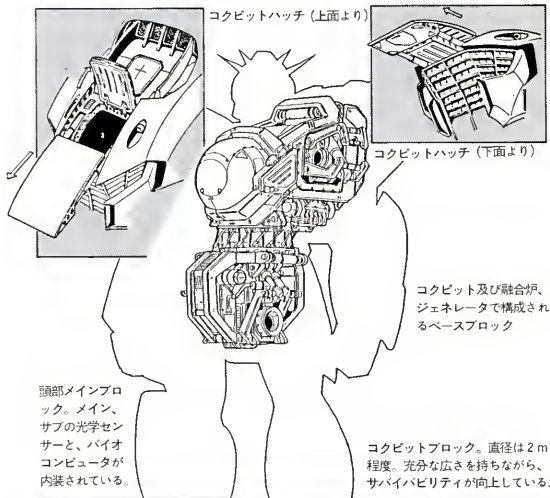
連邦軍において、画期的で高性能なMS（モビルスーツ）は、軍の大規模プロジェクトがある時期に開発されることが多かった。V作戦によって初めて、実戦投入が可能なRX-78 ガンダムが作られ、エウーゴ内部のZプロジェクトで、MSZ-006 Zガンダム、MSZ-010 Zガンダムを作ることができた。そして、RX-93 ヴガンダムは、それまでのガンダムタイプMSの集大成だったのだ。F91は、連邦軍とサナリイの共同による「F計画」によって生まれた機体である。UC（宇宙世紀）0100年代、連邦軍におけるMSの開発は、大きな障害に突き当たっていた。そのころ、連邦

軍においては、メインテナンスを始めとするMSの稼働に要する効率を抜本的に見直すため、MSの小型化が決定していたが、アナハイム・エレクトロニクスの技術供給による基本的な構造を見直すという限り、性能を維持したままの小型化は不可能だった。アナハイム製MSの基本構造では、核融合炉とジェネレータを隔離できず、本体内にコンポネントするしかなかったからである。この問題は、軍周辺の技術者から指摘され、検討されることになった。同時に、多分に政治的な理由から、かつてのように、軍主導によるMS開発を推進することが決定していた。そのため、それまでMSの開発に携わることのなかったサナリイが新型MSの開発にあたった。

サナリイとは、海軍戦略研究所（Strategic Naval Research Institute）の略称で、主にコロニー公社の依頼によって大規模構造物や業務用の機動機器を試作していた。サナリイによる提言で、ジェネレータを外付けする設計案が実行に移されることになった。基本的には、従来縦置きだったものを横置きにするだけだったが、回路や伝導装置の取り回しが予想以上の困難さを伴った。しかも、既存のMSを単純にスケールダウンするわけではないため、実効値を確保することは、不可能に近かった。しかし、MCA構造が考案されたことにより、それまでには考えられなかったほどの高密度実装が可能となった。

Mobile Weapon

F91のベースフレーム&コクピットブロック



Mobile Weapon

F91の構造

MCA構造とは、マルチプル・コンストラクション・アーモア(Multiple Construction Armor)のことで、多機能装甲を意味する。これは、既存の装甲とはコンセプトの異なる概念に基づいて考案されたものである。それまでの多機能装甲と呼ばれるものは、例えば、リアクティブアーモアやチョバムアーモア、耐ビームコーティングなどの機能を、複合的に施されたもののことを意味し、装甲としての機能を融合させたものだが、MCAは、装甲以外の機能を合わせ持つという特徴がある。通常のMSは、ムーバブル・フレームの周辺に稼働に必要な機器を取り付け、それを

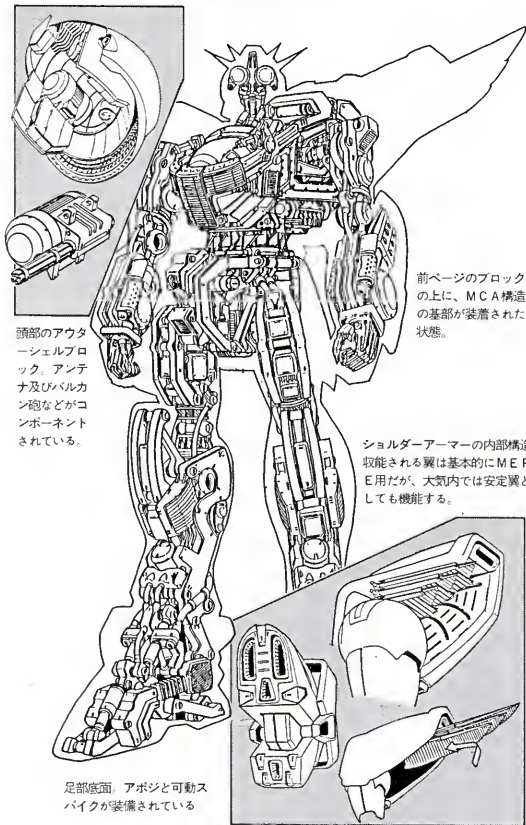
装甲で覆うという構造をしている。普通、MSの装甲は、主に耐弾性やステルス性などを主眼として開発されていた。MSを小型にすることを考えた場合、既存の構造概念では、どれかを小さくしなければならぬのだが、それでは高性能を達成することなど不可能に近かった。さしあたって、核融合炉やジェネレータを、コンパクトにまとめる研究は進んだが、モノコックやムーバブル・フレーム構造を使用したままの小型高性能化は不可能だという結論が導きだされた。MCAはそうした事情で開発された。MCAとは、構造材であり、内蔵電装機器であり、装甲でもあるのだ。構造材そのものに電子機器の機能を盛り込めることは、リガンダムに装備されていた

サイコ・フレームなどで実証されていた。LSIクラスのコンピュータ・チップなら金属に鑄込むことができる。この技術を応用、発展させ、MSというシステムそのものをシェイプすることに成功したのだ。MCAによって、回路の取り回しなどを、構造そのものに兼任させることが可能となった。そのことで、逆に機体を飛躍的に軽量化でき、推力重量比が改善され、機動力による回避などを含む、被弾率の低下が可能となった。無論、小型高性能、高出力のジェネレータなどの周辺技術が向上し、確立されたことも大きな要素である。

F91の場合、機体内部をパーツ単位で見るとき、外見上はかつてのフレームや緩衝材などとほとんど変わるところはないが、実際には、これらの内部構造は多種多様で複雑な機能を持っている。これは、ブロック単位で組み上がったときに、設計段階での性能を発揮する。ブロックごとは、それぞれの破損や損壊を考慮したフェイルセーフシステムが織り込まれており、一部が故障した程度で作動不能に陥ることはない。

総合的にF91は、既存のMSをはるかに超える高機動を獲得することができた。さらに、それらの機能を統合するため、現状ではもつとも有効であると想定されるパイオコンピュータの搭載が決定した。F91のシステムの傾向から判断した場合、ニューロン系の構造を持つパイオコンピュータのほうが適切であると判断されたためである。

MCAベースフレームブロック



頭部のアウト
ーシェルブロ
ック。アンテ
ナ及びバルカ
ン砲などがコ
ンポーネント
されている。

前ページのブロック
の上に、MCA構造
の基部が装着された
状態。

ショルダーアーマーの内部構造。
収められる翼は基本的にMEP
E用だが、大気内では安定翼と
しても機能する。

足部底面。アポジと可動ス
パイクが装備されている

F91の機能

F91は、既存のMSをはるかに凌駕する機動力を持っている。ジェネレータに余力があるため、ウェスバーやビームシールドの搭載が可能になったほどである。それはまた、通常のパイロットが使用する場合には、リミッターを必要とする結果を招いた。F91は、「ニュータイプと呼ばれるようなパイロットでなければ、本来の潜在能力を引き出せないであろう超高性能の機体」である。そのため、搭乗したパイロットが、機体の最大稼働に対応することが可能であるかどうかを判定する機能が必要となった。パイオマトリクスで構成されるパイオコンピュータ採用の最大の理由がこれである。

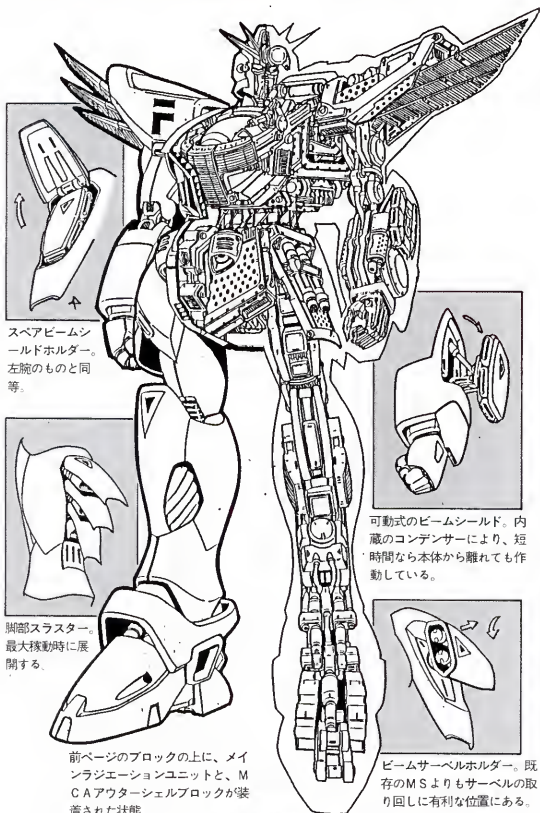
F91に搭載されたパイオコンピュータは、本来、兵器搭載を前提とした技術ではなく、操縦者に負担をかけないサイコミュ開発のひとつの形として考えられていた。マン・マシーン・インターフェイスにおける理想のひとつの形がサイコミュであるとするならば、それは研究者にとって非常に魅力的な課題である。サイコミュのシステムが持っている問題点を解消する方法が確立されれば、記憶と感情を有機的に関連させることができるようになるだろう。これは、その分野の科学者、技術者にとってみれば普遍的な課題とも言えることができる。その意味で、C・VのXMA-100ラフレシアに搭載されていたネオ・サイコミュと同じコンセプトで作られてい

たと言っても過言ではない。F91に搭載されているパイオコンピュータは、機体の操縦のみならず、センサー類と連動させることも可能なのだ。パイオコンピュータの判定により、機体が最大稼働を必要としていることが判断、確認され、モードが変換されると機体の稼働設定が変更され、各部の冷却が始まる。運動の過負荷による機体各所のアライメントを保持するためと、第一にパイオコンピュータが高熱を嫌うためである。特に宇宙空間では大気圏内のように放熱ができないので、頭部などには触媒が添加、散布される。触媒排出のため、フェイスガードが両頬に収納され、エアダクトが露出する。また、それに伴い、金属剝離効果MEPE (Metal Peel

Effect) が起こる。これは、MCA構造の副産物で、放熱を、ラジエータや触媒のみではなく、装甲そのものにも行なわせる効果である。いわゆる耐ビームコーティングのようなもので、装甲に特殊な表面加工を施している。MEPEによって、機動慣性方向に、機体の輪郭及び、ある程度の質量を持った残像が残るのだ。この残像は、主な材質が金属粒子であるため、レーダーなどの索敵装置やパイロットの肉眼を欺瞞することができ。この時代のMSやMAは、コンピュータグラフィックスでモニター画面を作っているため、一層、錯覚に陥りやすくなる。最大稼働時のF91が、あたかも分身しているかのように見えるのはそのためである。

機動兵器

メインラジエーション&MCAアウターシェルブロック



スベアビームシールドホルダー。左腕のものと同等。

脚部スラスター。最大稼動時に展開する。

前ページのブロックの上に、メインラジエーションユニットと、MCAアウターシェルブロックが装着された状態。

可動式のビームシールド。内蔵のコンデンサーにより、短時間なら本体から離れても作動している。

ビームサーベルホルダー。既存のMSよりもサーベルの取り回しに有利な位置にある。

Mobile Weapon

MS用語辞典③

フィン・ノズル・ワイヤーガン

フィン・ノズル [FIN NOZZLE]

ビギナ・ギナの背部に装備されている。ベルガタイプに装備されているシエルフノズルと同様、複合的な機能に加え、MSの機動性をさらに向上させるために考え出されたシステム。4対のノズルがおのおのに稼動し、あらゆるベクトルの運動に対応する。機動性は、シエルフ・ノズルよりさらに向上している。

ヴェンパー [V-ship]

F91の背部に装備されている大型火器。高速で貫通力

の強いビームから、低速で破壊力の強いビームまでの撃ち

わけができる。出力は、戦艦クラスの主砲に匹敵する。このユニットは、外側に30度傾けてつけられているので、機体各部のバーニアの噴出軸に干渉せず、ほかの火器を使用している時はAMBABCシステムとして機能する。レールで前方に移動し、使用する。

ノイミット [NOIMIT]

サナリイを中心として、研究開発されたRXシリーズにかわる新体系のMSのコード。

恐竜進化をとげはじめたMS

を、開発当初の基本概念にもどすためのものである。基本形を中心に、26通りにわたる装備のバリエーションを持つ

F90が最初に開発された。

各バリエーションの発展形として、戦闘型のF91、攻撃型のF71が実戦配備を待っている。

ブロック・バンガード

[BLOCK VANGUARD]

クロスボーン・バンガードの中でも得によりすぐりが選ばれたエリート部隊。機体を黒い色で染め上げている。指揮官は、ザビーネ・シャル。

マシンガン

[MACHINE GUN]

G・キャノンの主固定兵装。コロニー内での戦闘を考慮し、大口径の破壊力の強いものではなく、中口径の高速徹甲弾

を使用している。使用する弾丸は、確実な動作を約束する

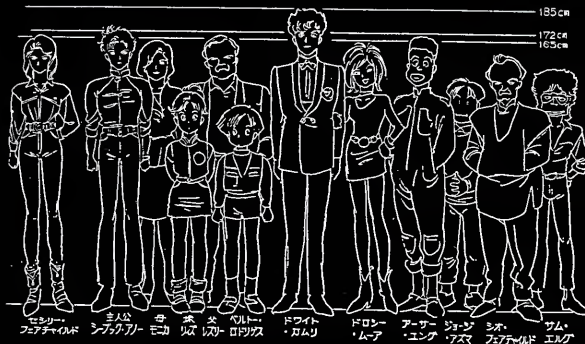
カートリッジ式のものである。マルチプル・インストロクシ

コンストラクション アーマー

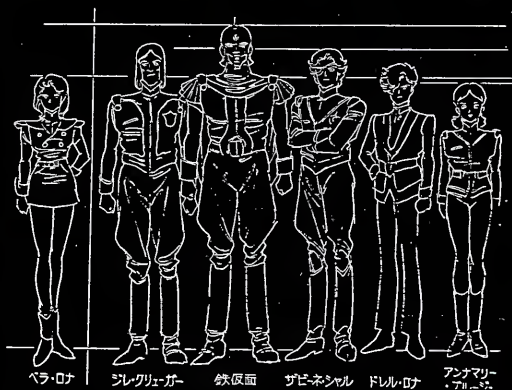
F91に採用されている新構想の装甲。モノコックとムーバブル・フレームの機能をあわせ持つ。

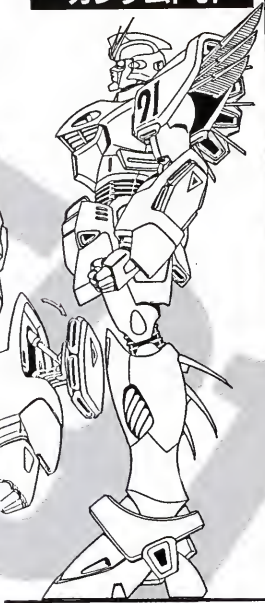
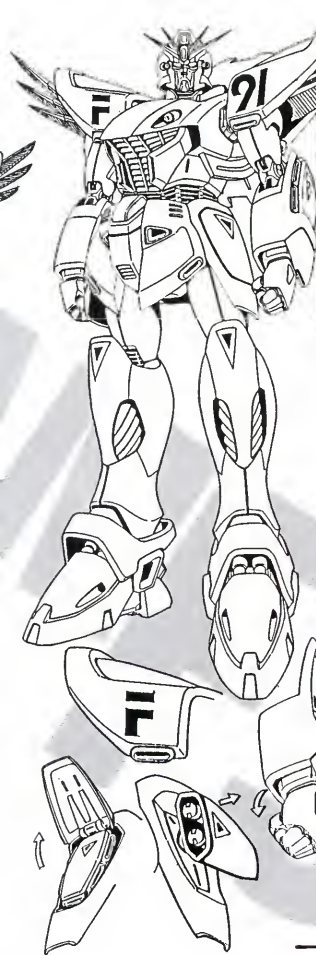
ワイヤーガン [WIRE GUN]

甲板などの無重力地帯で移動するための道具。また、別の用途として、MSの指に仕込んであり、僚機との「おはだの触れあい会話」に使用する。

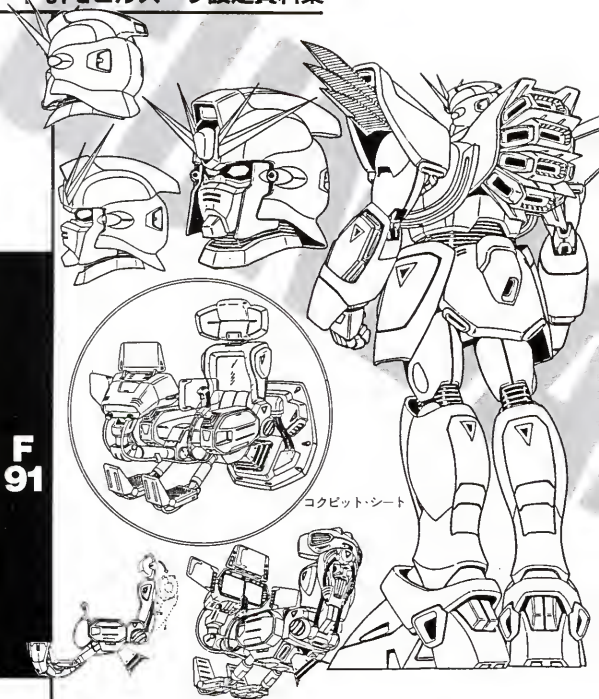


F91設定資料大鑑





F
91

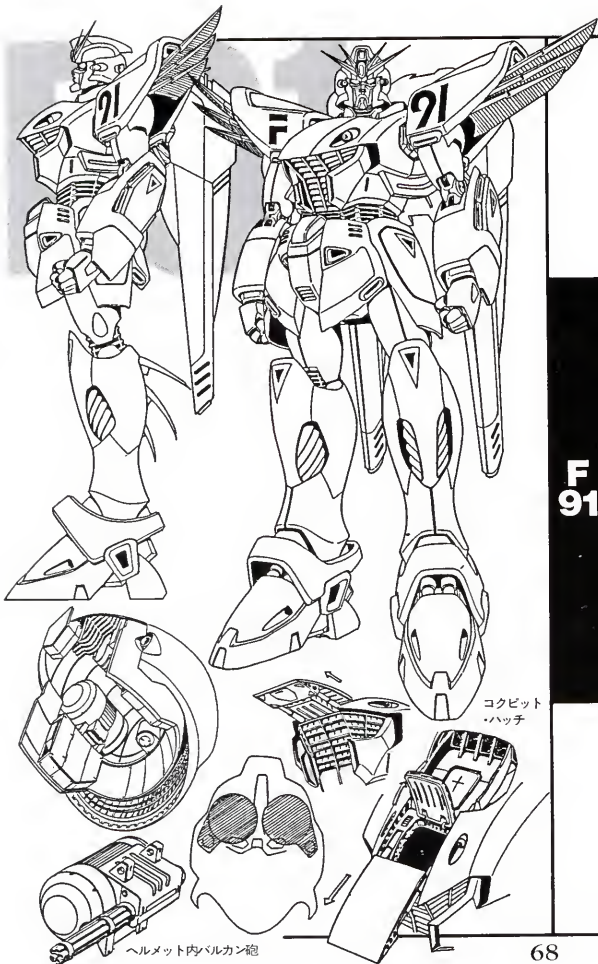


F
91

F91 SPEC

頭頂高/15.2m 本体重量/7.8t 全備重量/19.9t 装甲材質/ガンダリウム合金セラミック複合材 ジェネレーター出力/4250KW
スラスター推力/15530kg×4、4380×6
アポジモーター数/51(8) 武装/バルカン砲×2、メガマシンガン×2、ビームサーベル×2、ヴェスパー×2、ビームシールド×1(1)、ビームライフル×1

： シーブックが搭乗するガンダムF91は
： 地球連邦軍がF90以降研究を進めていた
： MS小型化技術の集大成として、『現時点
： でのMSの限界性能の達成』を目標に開
： 発された。フロンティアIの『サナリィ』
： 施設で完成をみたF91は、クロスボーン
： ・バンガードの襲撃により、練習艦スベ
： ース・アークによって運び出された。



ヘルメット内バルカン砲

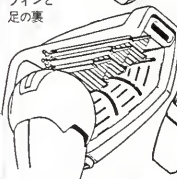
コクピット
・ハッチ



フェイス(マスクなし)

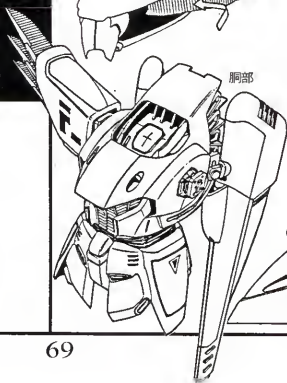


肩部の
フィンと
足の裏

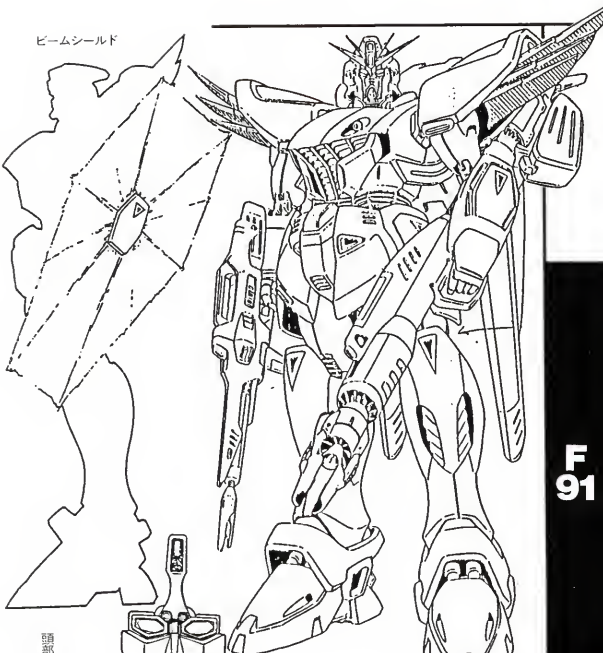


胸部

F
91

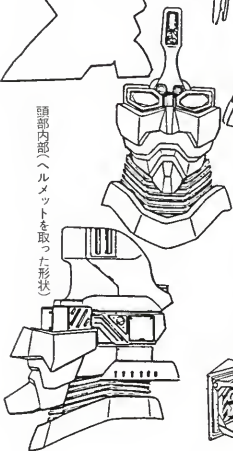


ビームシールド

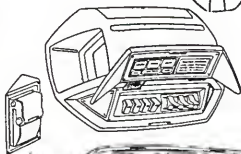


F
91

頭部内部（ヘルメットを取った形状）



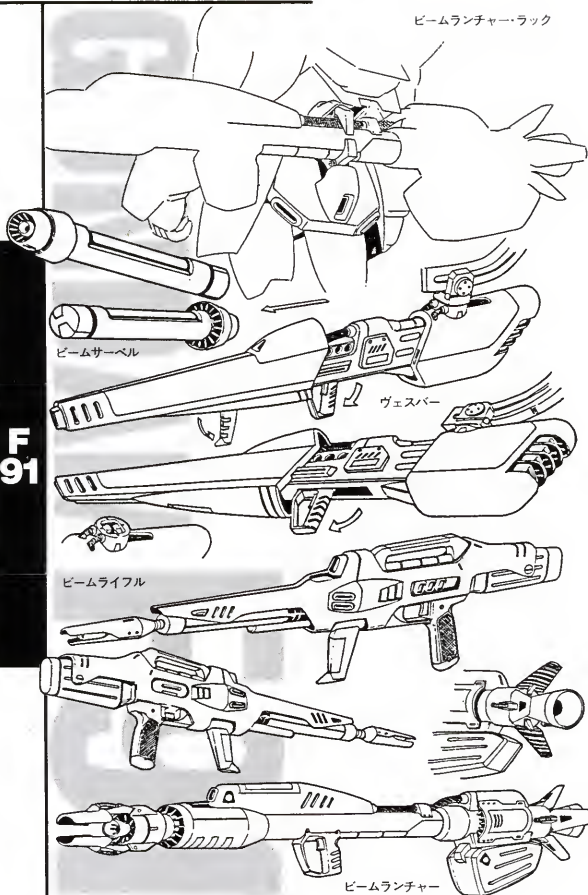
右コンソール



コンソール・メインスイッチ



ビームランチャー・ラック



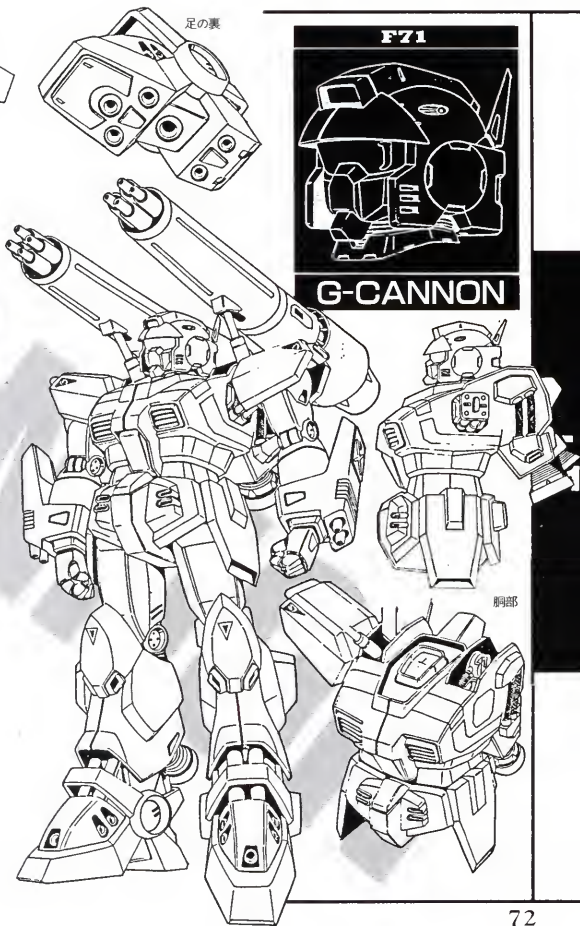
F
91

足の裏

F71

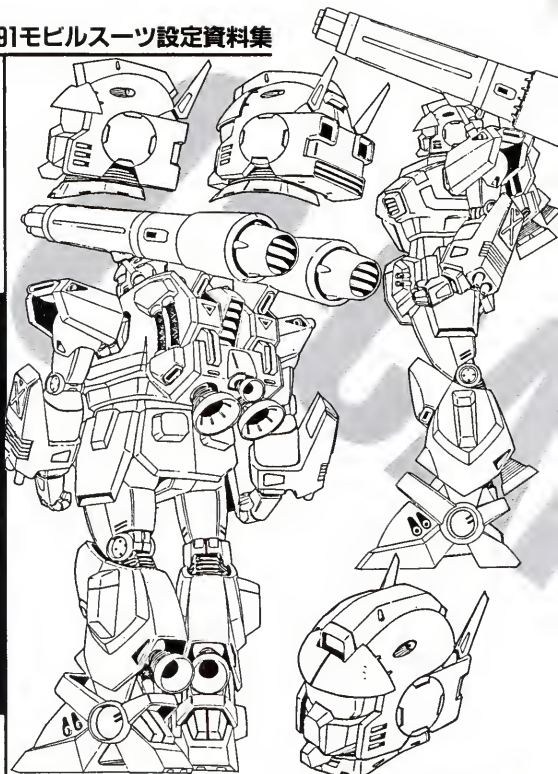


G-CANNON



胸部

F
71

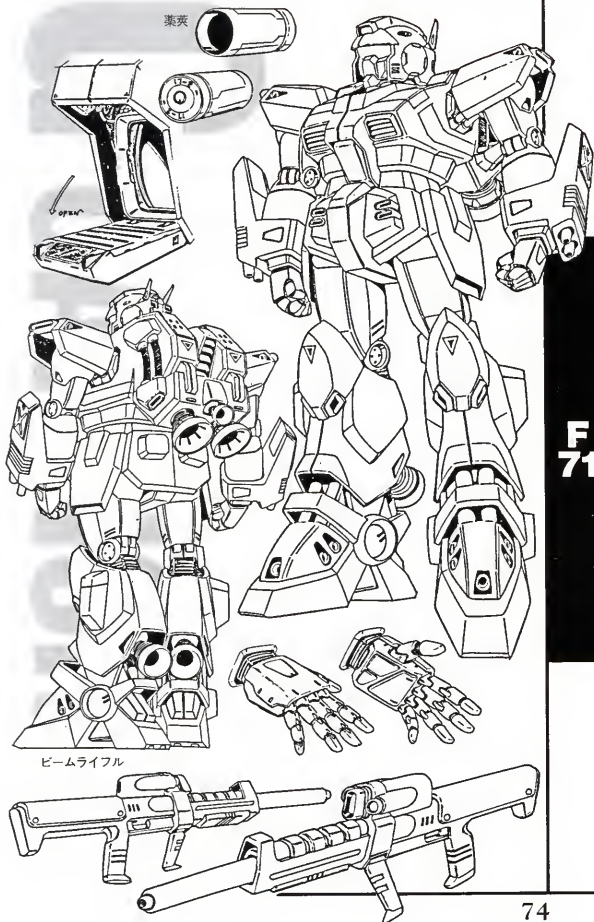


F71 SPEC

頭頂高/14.3m 本体重量/8.7t 全備重量、
23.1t 装甲材質/ガンダリウム合金セラミ
ック複合材 ジェネレーター出力/3350KW、
スラスター推力/27840kg×2、16790kg×2
アポジモーター数/50 武装/バルカン砲×
2、4連マシンキャノン×2、ダブルビーム
ガン×2、ビームサーベル×2、ビームライ
フル×1

ジークヤノンは、実験用MS F90の
Sタイプのコンセプトで造られた量産
機である。支援専用機としてサポート
に必要にない機能を徹底的に排除した
結果、MS単体としての性能も向上し、
推力/重量比をはじめ大幅な高性能化
が達成された。

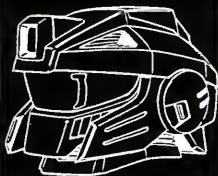
素莢



F
71

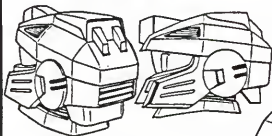
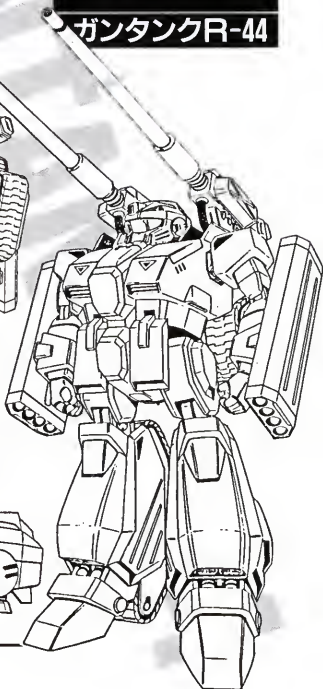
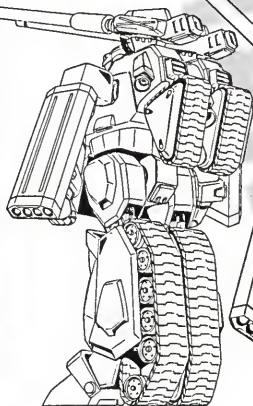
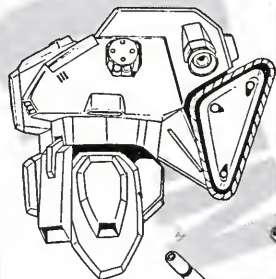
ビームライフル

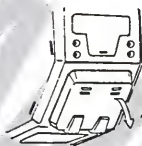
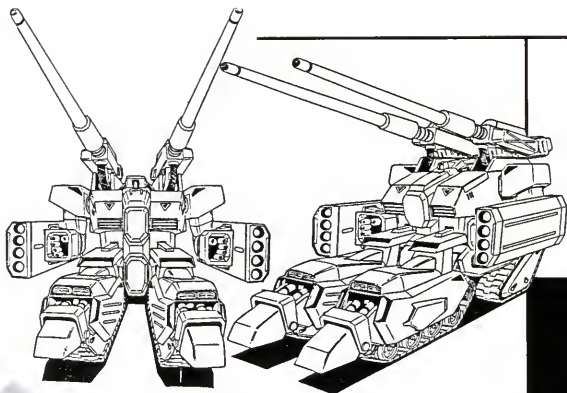
RXR-44



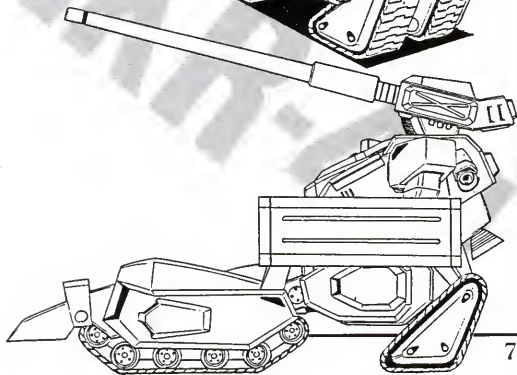
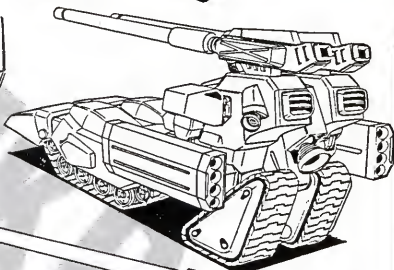
ガンタンクR-44

RXR-44

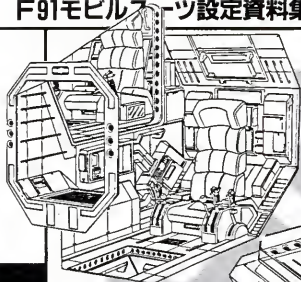




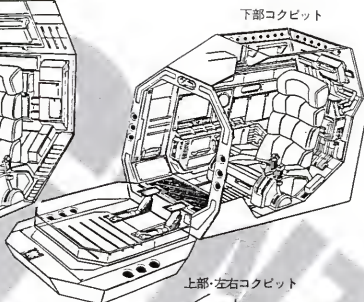
テールハッチ



RX-144

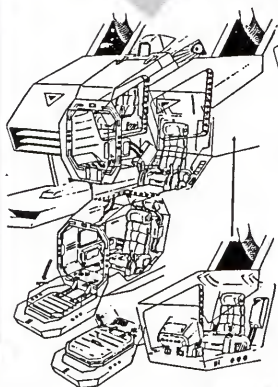


中央コクピット

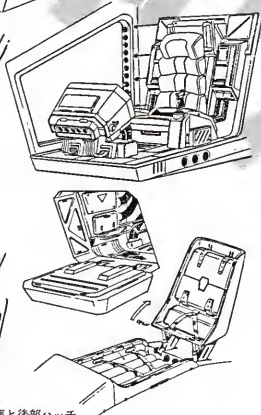


下部コクピット

上部・左右コクピット



コクピット配置図

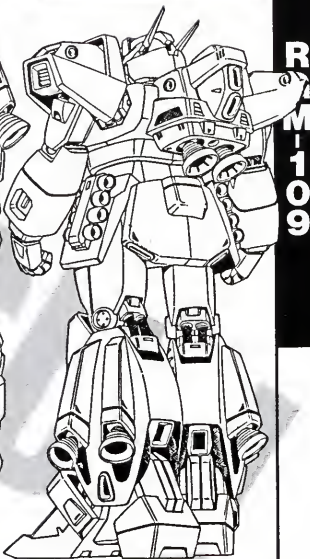
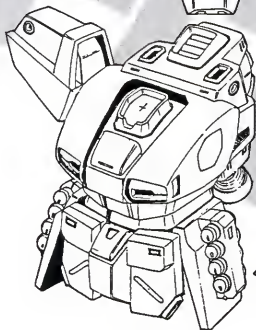
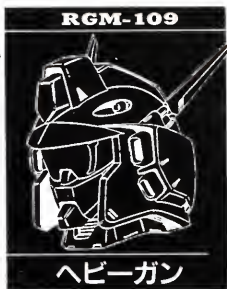
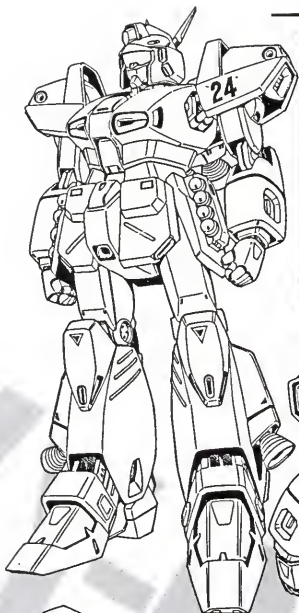


頭部収納庫と後部ハッチ

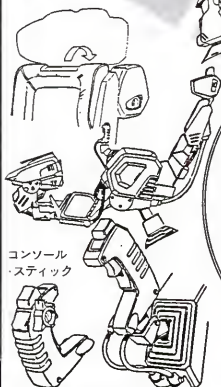
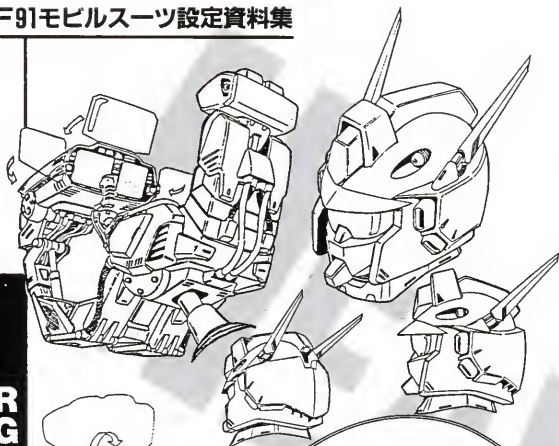
RXR-44 SPEC

頭頂高/10.3m 本体重量/8.7t 全備重量/11.8t 装甲材質/不明 ジェネレーター出力1050KW スラスター推力/14000kg×1 アポジモーター数/28 武装/200ミリキャノン×2、4連ミサイルポッド×2、フィンガーランチャー×10

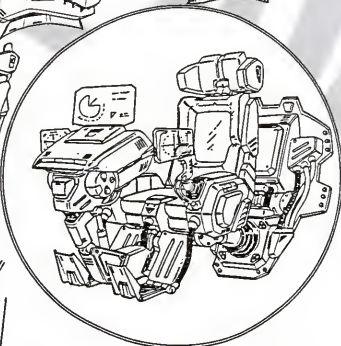
ロイ・ユングの戦争博物館に展示されていたこの機体は、10年前に製作された旧型のMSで、タンク形態からMS形態への変形機能を持ち合わせている。現在ではまったく製造されていない機体で、ロイが個人的に復元した機体である。



RGM-109



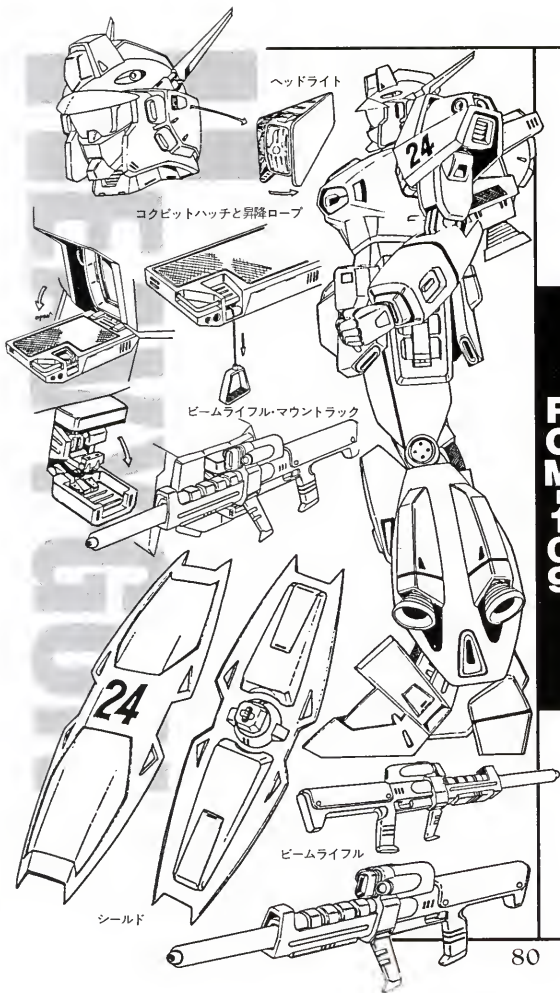
コンソール
スティック



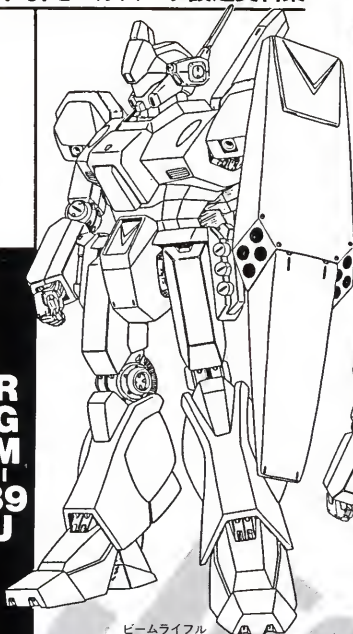
RGM-109 SPEC

頭頂高/15.8m 本体重量/9.5t 全備重量/23.5t 装甲材質/ガンダリウム合金 ジェネレーター出力/2870KW スラスター推力/21250kg×2、9940kg×4 アポジモーター数/59 武装/バルカン砲×2、4連グレネードラック×2、ビームサーベル×1、ビームサーベル×1

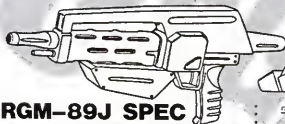
コクピット・シート(Gキャノンと共通)
スペース・アークのMSパイロット、ビルギット・ビリヨが搭乗した機体。MSの小型化が検討された時期に開発された機体で、ジェガンの後継機にガンダムコンセプトを取り入れて作られたMSである。



RGM-89J



ビームライフル



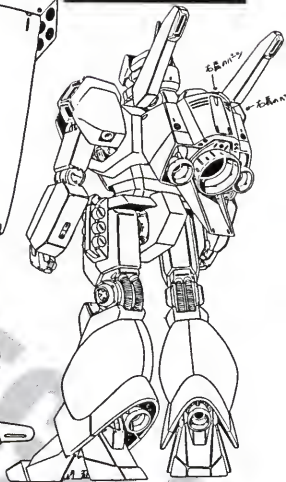
RGM-89J SPEC

頭高/19.0m 本体重量/22.8t 全備重量/49.7t 装甲材質/チタン合質セラミック複合材 ジェネレーター出力/2430KW スラスタ-推力/55870kg×1、14290kg×4 アポジモーター数20 武装/バルカン砲×1、3連グレネードランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライフル×1

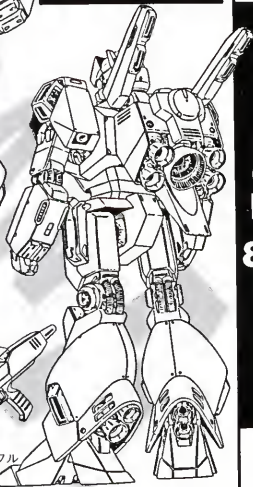
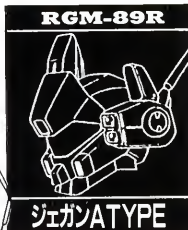
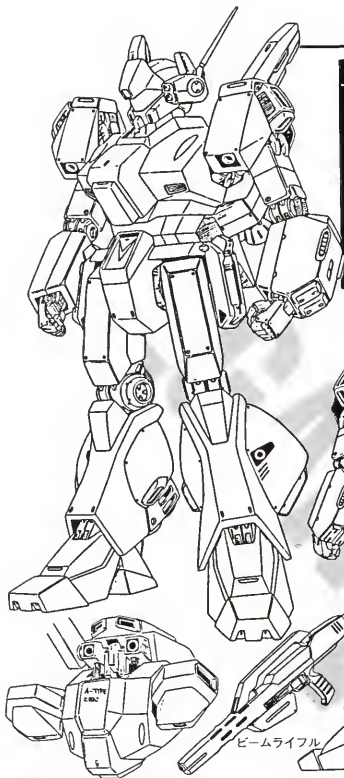
RGM-89J



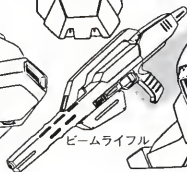
ジェガン



宇宙世紀0090年代（第2次ネオ・ジオン抗争）に設計された量産型機を改造した機体。Fシリーズが量産化されるまでは地球連邦軍の主力となっていたMS。しかしFシリーズなどの小型化が成功したMSの登場により、すでに旧型となりつつある。



R
G
M
-
8
9
R



RGM-89M SPEC

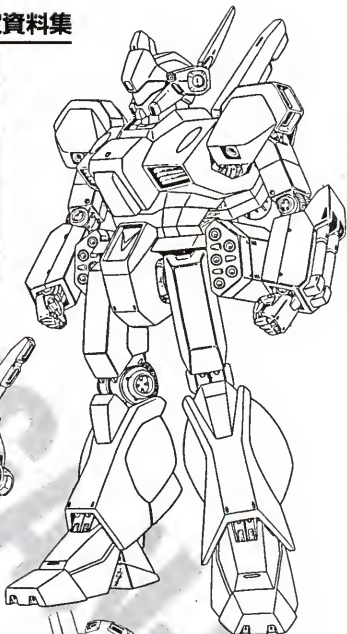
頭頂高/19.0m 本体重量/23.1t 全備重量/51.9t 装甲材質/チタン合金セラミック複合材 ジェネレーター出力/2730KW スラスター推力/57160kg×1、12320kg×8 アポジモーター数/30 武装/バルカン砲×2、2連グレネードラック×1、4連ロケットランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライフル×1

ノーマルタイプの機体をベースに、ジェネレーターを強化。機動性を高め、武装も強化したジェガンシリーズの最優秀機。数少ないFシリーズの穴を埋めるべく、機能向上を図られた機体。おもに指揮官が搭乗する。

RGM-89M



ジェガンBTYPE



ビームライフル

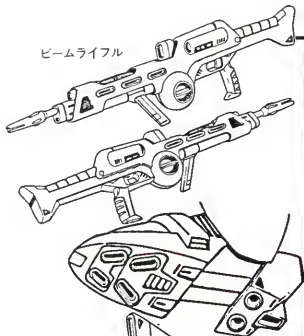


RGM-89R SPEC

頭頂高/19.0m 本体重量/23.4t 全備重量/51.6t 装甲材/チタン合金セラミック複合材 ジェネレーター出力/2430KW スラスタ-推力/69840kg×1、15290kg×2、12270kg×2 アポジモーター数/22 武装/バルカン砲×1、5連ロケットバック×2、4連ロケットランチャー×2、ビームサーベル×2、ビームライフル×1

… Aタイプ同様ノーマルタイプをもとに改造された機体。近距離接近戦を主旨に開発されたMSで、5連ロケットバック、4連ミサイルランチャー、ビームサーベルの増加などの武装がほどこされている。

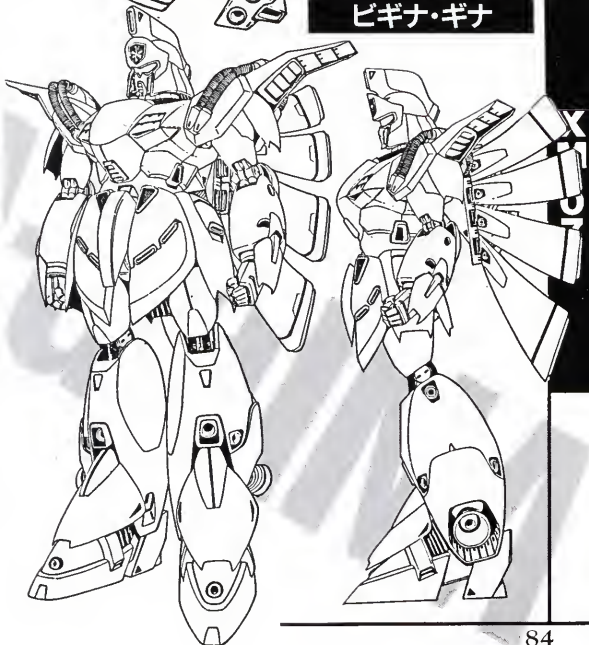
ビームライフル



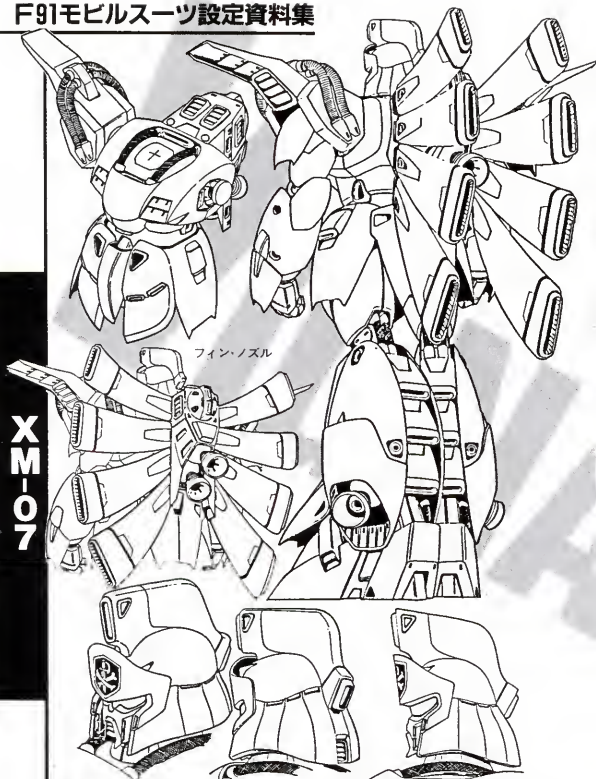
XM-07



ビギナ・ギナ



XM-07

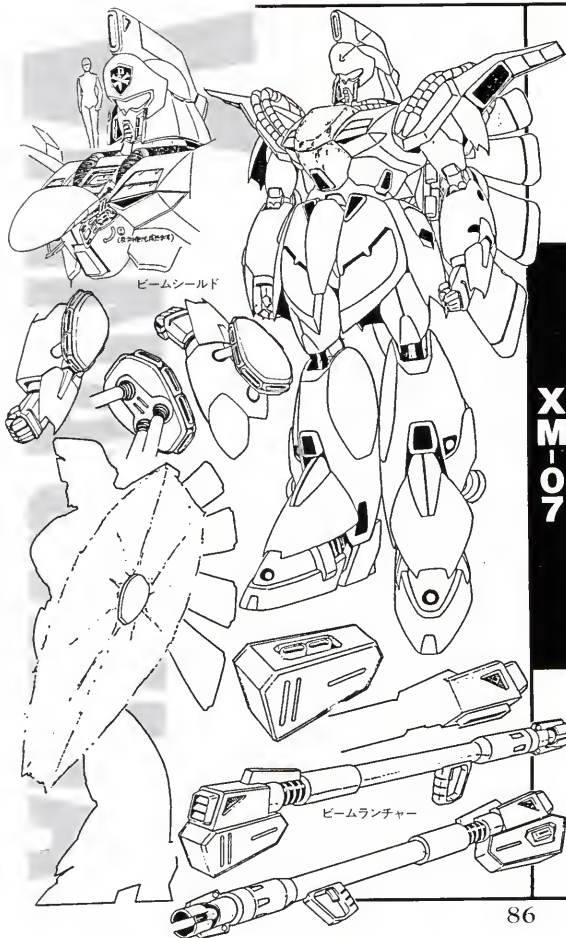


フィン・ノズル

XM-07 SPEC

頭頂高/15.8m 本体重量/8.7t 全備重量/22.5t 装甲材質/チタン合金/ハイセラミック複合材 ジェネレーター出力/4790KW
スラスター推力/22950kg×2、8950kg×2、4490kg×8 アポジモーター数/87 武装/ビームライフル×1、ビームシールド、ビームサーベル×2

ロナ家に戻ったベラ（セシリー）に与えられたMS、それがこのビギナ・ギナである。XM-04、05で実用化した可動式のスラスター『シェルフ・ノズル』をさらに発展させた『フィン・ノズル』を搭載した試作機である。

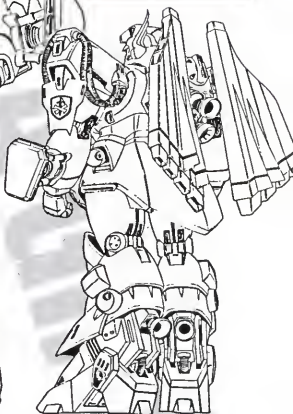
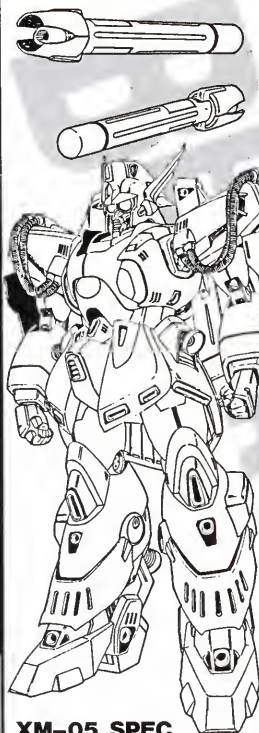


ビームシールド

ビームランチャー

XM-07

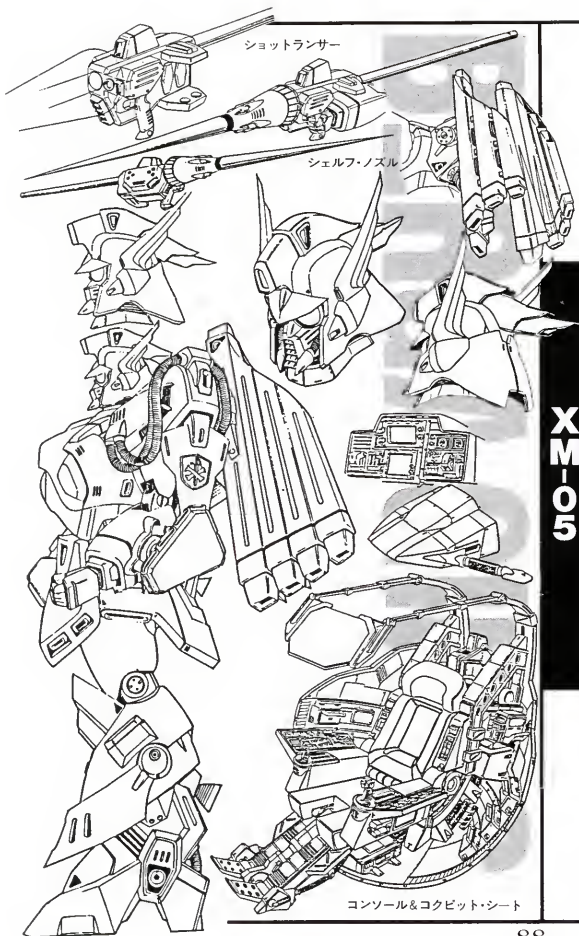
XM-05

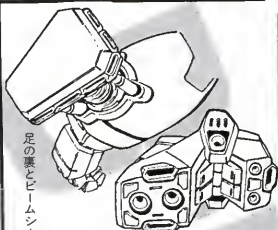


XM-05 SPEC

頭頂高/15.7m 本体重量/9.1t 全備重量/22.7t 装甲材質/チタン合金ハイセラミック複合材 ジェネレーター出力/4790KW
スラスター推力/21820kg×2、8950kg×3、3460kg×8 アポジモーター数/73 武装/ショットランサー×1、ヘビーマシンガン×4、ビームシールド×1、ビームサーベル×2

クロスボーン・バンガードの指揮官用戦闘型MS。ベラ・ロナの補佐役をまかされたザビーネ・シャルの駆る機体は、全身を黒と紫に染められた精鋭部隊『黒の部隊』の隊長機である。ベルガ・ダラスに比べ、センサー系、スラスター系が強化されている機体となっている。

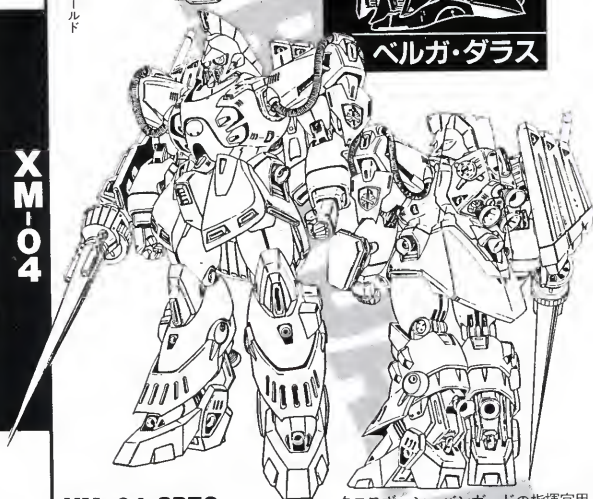




足の裏とビームシールド



XM-04



XM-04 SPEC

頭頂高/15.8m 本体重量/9.3t 全備重量/22.1t 装甲材質/チタン合金ハイセラミック複合材 ジェネレーター出力/4530KW
スラスター推力/22500kg×2、8950kg×3、3460kg×6 アポジモーター数/82 武装/ショットランサー×1、ヘビーマシンガン×2、ビームシールド×1、ビームサーベル×2

クロスボーン・バンガードの指揮官用格闘型MSで、ベラ・ロナの兄であるドレル・ロナの搭乗機。同系列機のベルガ・ギロスに比べ、トータルの性能は劣るが、ショットランサー、ビームシールドなどの携帯装備はベルガ・ギロスと同じものを装備している。

ビームシールド
(ベルガ・ギロスも同様)

シェルフ・ノズル

ショットランサー

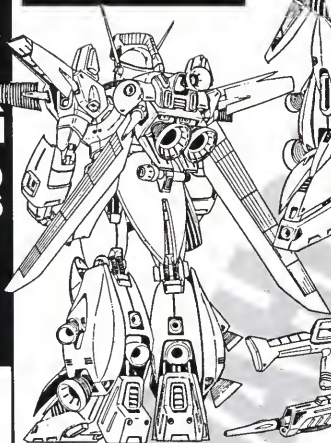
XM-04

XM-06

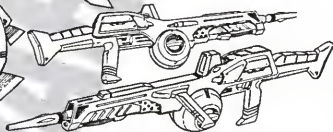


ダギ・イルス

XM-06



ビームライフル

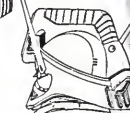
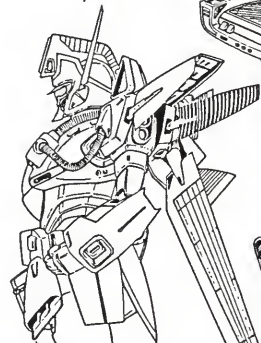
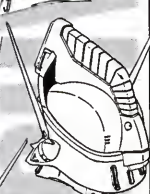
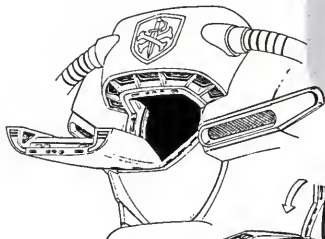


XM-06 SPEC

頭頂高/15.0m 本体重量/9.7t 全備重量/22.5t 装甲材質/チタン合金/ハイセラミック複合材 ジェネレーター出力/3620KW
スラスター推力/25540kg×2、11030kg×2、8950kg×3 アポジモーター数/87 武装/ビームライフル×1、3連拡散ビーム砲×1、ビームサーベル×1

クロスボーン・バンガードの指揮官用偵察型MSで、アンナマリー・ブルージュの搭乗機。その開発主旨が戦闘重視ではなく『偵察』を目的に作られたため、機体各所にセンサー系を装備、ビームシールドは削除された。

コクピット・ハッチ

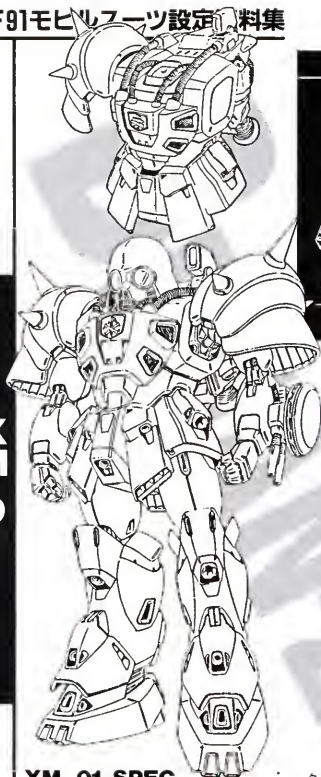


足底

シールド



**X
M
-
0
6**



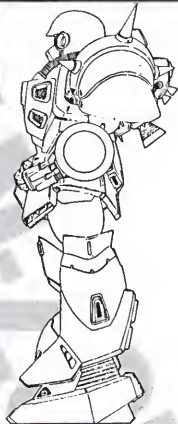
XM-01 SPEC

頭頂高/14.0m 本体重量/7.9t 全備重量/17.4t 装甲材質/チタン合金ハイセラミック複合材 ジェネレーター出力/3880KW スラスター推力/17310kg×2、28520kg×2、4460kg×4 アポジモーター数/84 武装/ショットランサー×1、ヘビーマシンガン×2、デュアルビームガン×1、ビームシールド×1、ビームサーベル×1

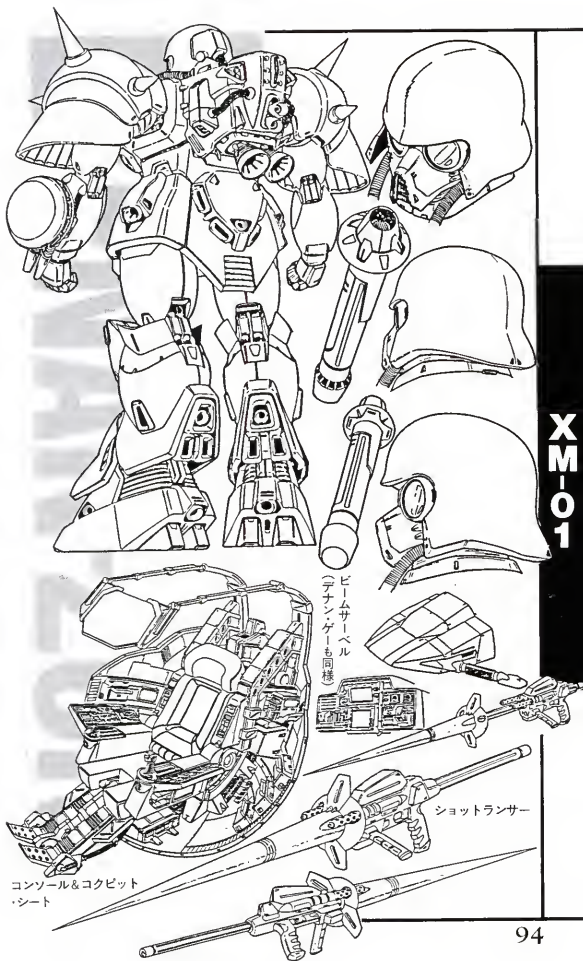
XM-01



デナン・ゾン



クロスボーン・バンガードのMSの中では初期に開発された機体。ゴーグル型のカメラアイや、ビームシールド、ショットランサーなど当時の地球連邦軍がもたない、新開発された技術が多数盛り込まれている。

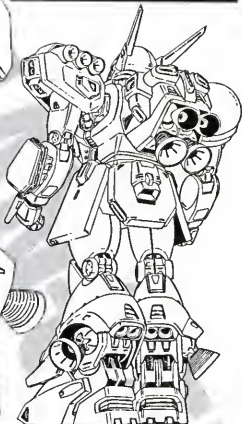
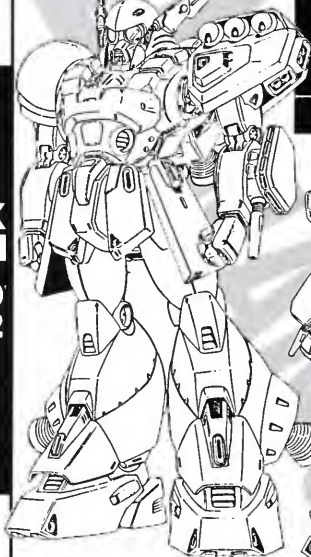




XM-02



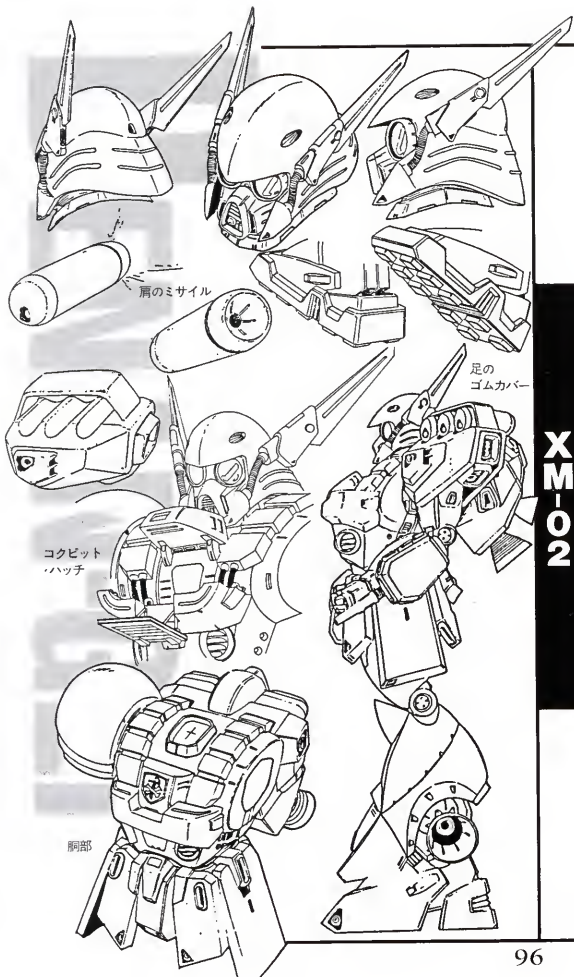
デナン・ゲー



XM-02 SPEC

頭頂高/13.9m 本体重量/7.1t 全備重量/19.2t 装甲材質/チタン合金/ハイセラミック複合材 ジェネレーター出力/4020KW
スラスター推力/17790kg×2、8700kg×2、11030kg×2、1340kg×4 アポジモーター数/76 武装/ビームライフル×1、ビームガン×1、ビームシールド、ビームサーベル×1、3連グレネードラック×1

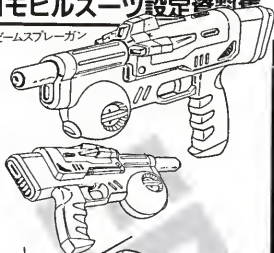
デナン・ゾンと同系列の機体で、いわゆる『デナン系』のMS。格闘型のデナン・ゾンに対しこのデナン・ゲーは機動性を生かした一撃離脱の戦法をとる戦闘用に設計されている。そのため接近戦用のショットランサーは装備されていない。



XM-02

F91モビルスーツ設定資料集

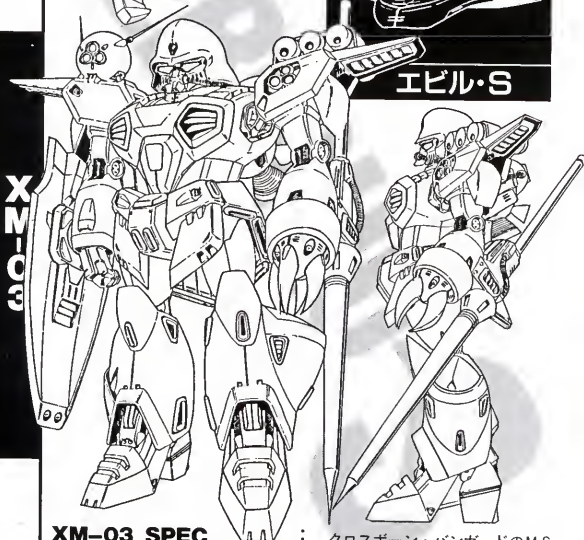
ビームスプレーガン



XM-03



エビル・S



XM-03 SPEC

頭頂高/13.2m 本体重量/6.8t 全備重量
/チタン合金ハイセラミック複合材 ジェネ
レーター出力/3090KW スラスター推力/22
540kg×2、11390kg×2 アポジモーター数
/66 武装/ショットランサー×1、ヘビー
マシンガン×4、ビームスプレーガン×1、
4連ショットクロ×1(1)、ビームサーベ
ル×1、3連グレネードラック×1

クロスボーン・バンガードのMS
の中では最も小型の機体であるエビ
ル・Sは、ダギ・イルスと同じよう
に偵察を目的に開発されたMSであ
る。肩に装備された偵察ポッドを飛
ばし情報を収集、実際に遭遇した場
合は戦闘しデータを取る。

ショット・クロウ

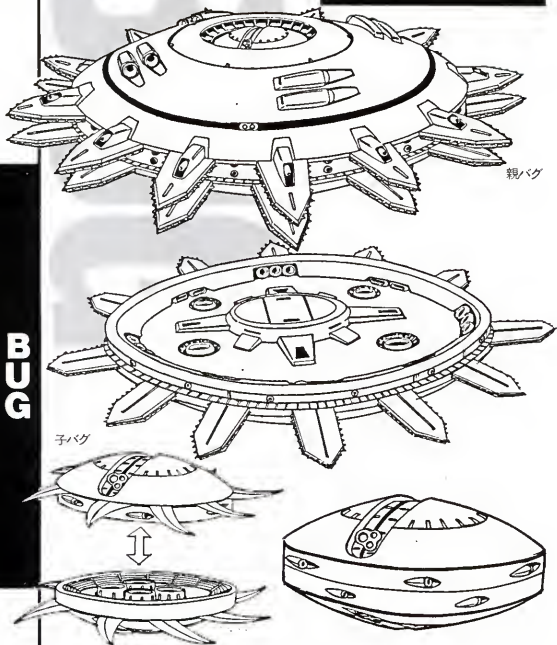
偵察ポッド

コクピット・ハッチ

XM-03

シールド

バグ



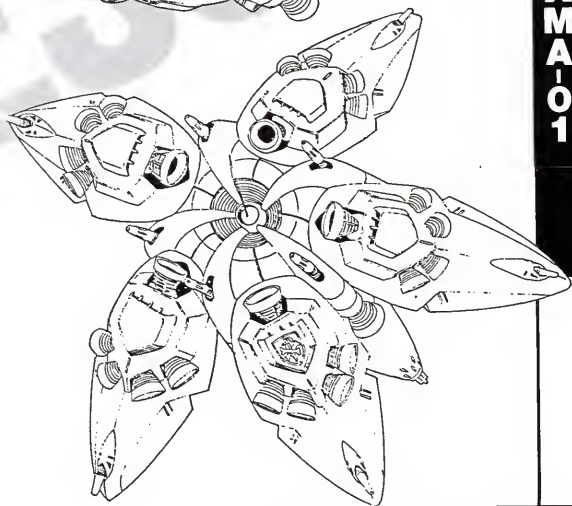
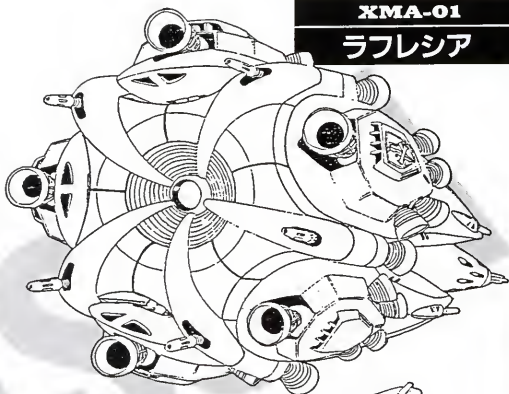
BUG SPEC

本体直径/3.0m、全長/3.9m、本体重量/1.6t、全備重量/3.2t、装甲材質/チタン合金、炭素繊維複合材、ジェネレータ出力/750KW×2、スラスター推力/375kg×16、武装/高速チェンソー×24、レーザートーチ×24、子バグ(直径0.6m)×3(6)(スラッシュブレード×16、ディストラクショングレナード×2)

バグは、鉄仮面が計画した『ラフレッシュ・プロジェクト』の一環として、余剰人口を抹殺するため設計された対人感応殺傷兵器である。センサーによって人間の呼吸や体温を感知し攻撃する。インプットされた地形に合わせて、大型の親バグから小型の子バグが射出される。

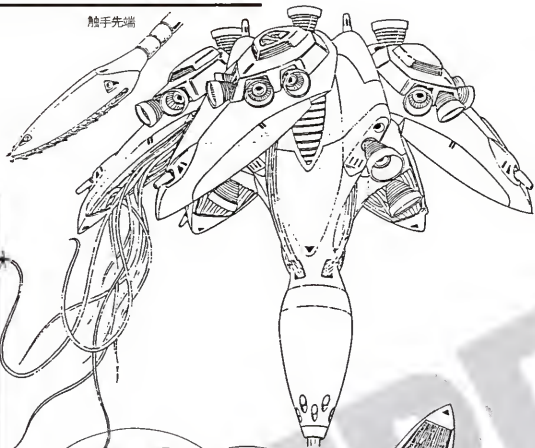
XMA-01

ラフレシア



XMA-01

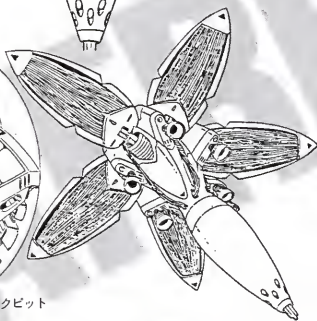
触手先端



XMA-01



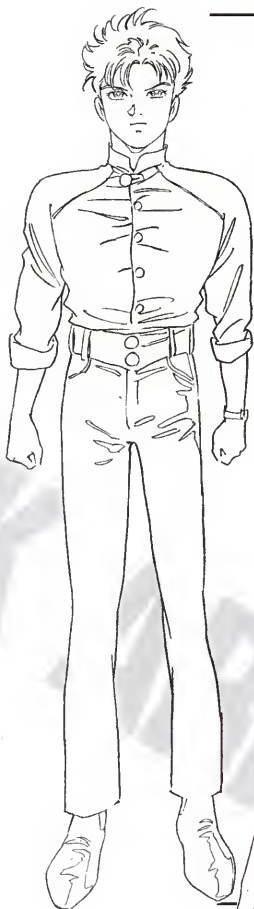
コクピット



XMA-01 SPEC

頭頂高/37.5m 本体重量/184.6t 全備重量/263.7t 装甲材質/チタン合金ハイセラミック複合材 ジェネレーター出力/31650kw スラスター推力/52020kg×5、43350kg×5、28900kg×20 アポジモーター数/40 (本体) 武装/メガ粒子砲×5、メガビームキャノン×5、ビームキャノン×4、拡散ビーム砲×8 テンタクラード×125

鉄仮面の研究課題である『ラフレシア・プロジェクト』の一つの結果として製作されたMA。巨大な花をイメージさせるその機体は5枚の花びらと本体とからなり、花びらの下にはビーム砲とチェンソーが装備された触手が無数にある。

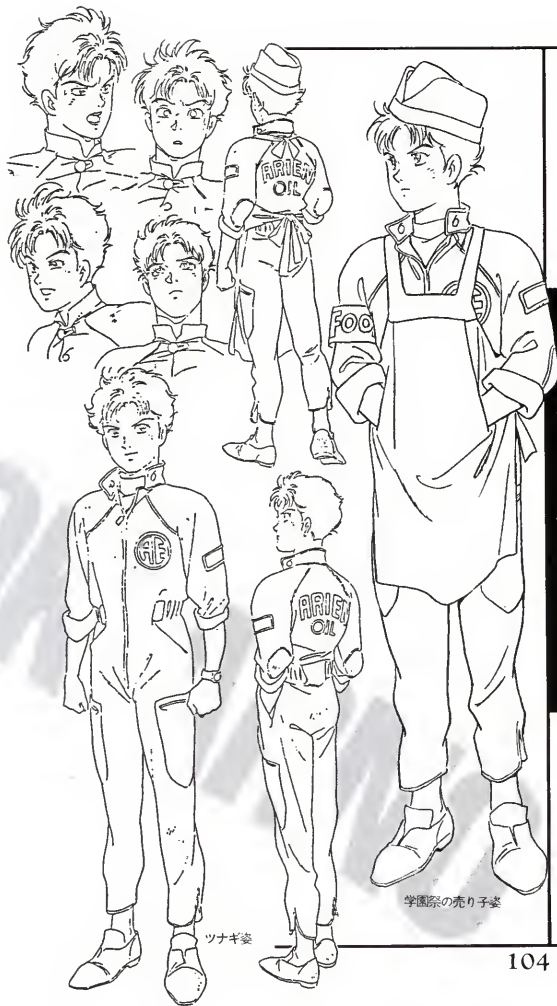


シーブック・アノー

フロンティアⅣでハイス
クールの機械科に通って
いた少年。溶接工の父親は
あまり家に帰らず、技術者の
母親は仕事に魅力を感じ家
を出てしまったため、妹と
一緒に過ごす機会が多かっ
た。クロスボーンの前
フロンティアⅣ進攻のさい、友人
たちとコロニーを脱出、地
球連邦軍の練習艦スペース
・アークに拾われ、母親の
開発したバイオコンピュー
ターを組み込んだMS、F
91に乗るようになる。







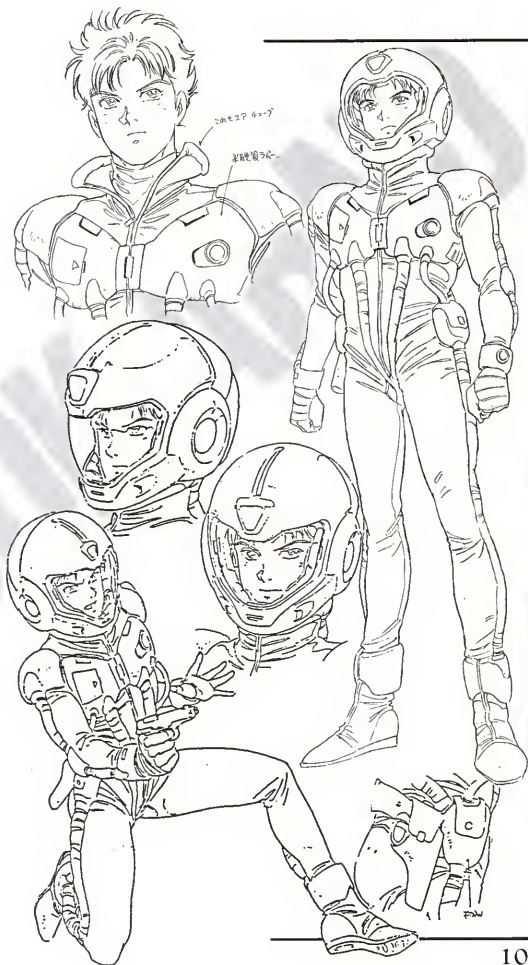
学園祭の売り子姿

ツナギ姿



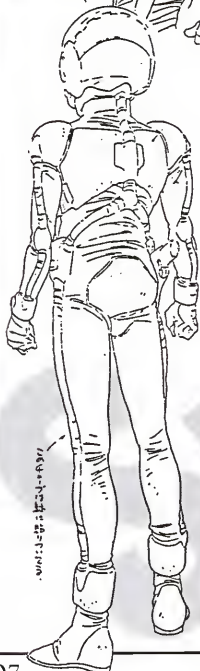
負傷したシーブツク

避難スタイル





シーブツク
(24.6-25.1)



シーブツク・アニー

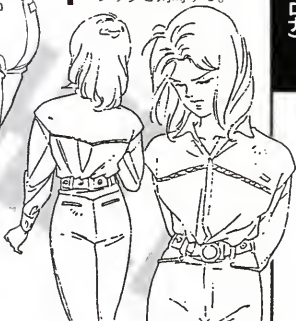
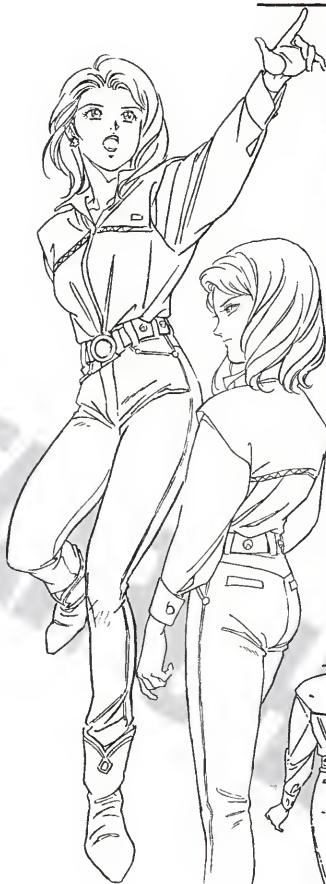




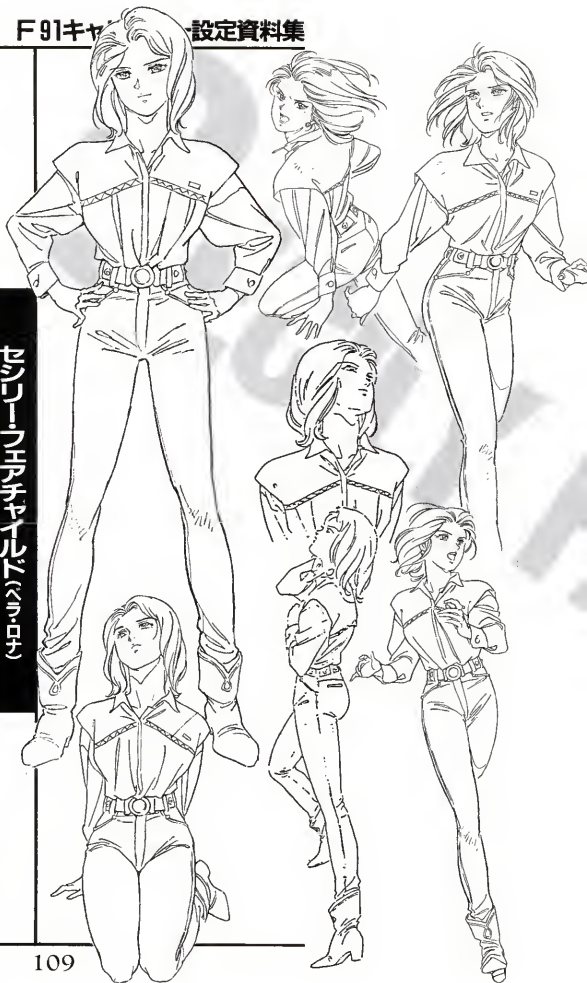
セ シ リ ー フェアチャイルド (ベ ラ ・ ロ ナ)

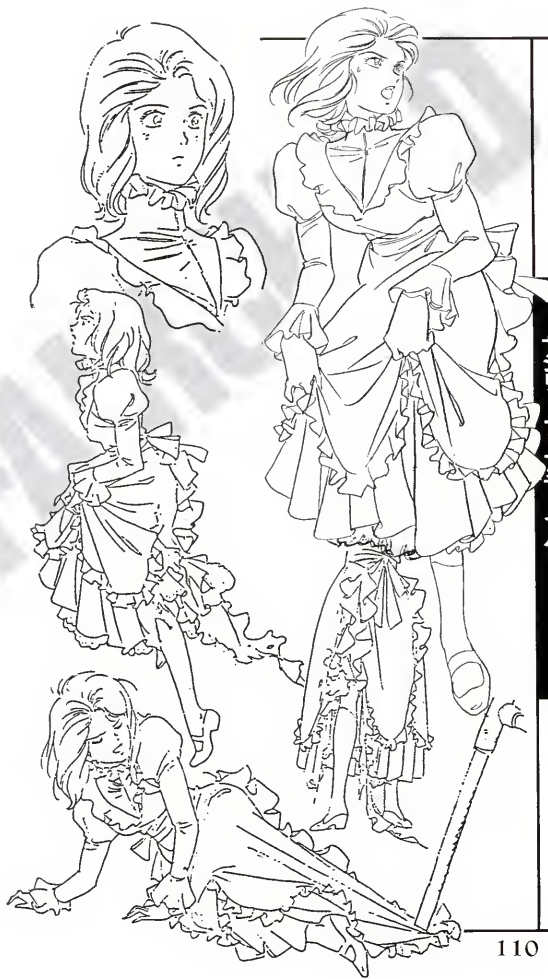
シーブックと同じハイス
クールの普通科に通って
いた少女。実はクロスボーン
を率いるロナ家の長女、ベ
ラ・ロナ。幼いころに、ロ
ナ家を出奔した母親に連れ
られてフロンティアⅣにや
てきた。クロスボーンの前
フロンティアⅣ襲撃時、兄
であるドレル・ロナにつれ
られてロナ家に戻る。そし
て、MSビギナ・ギナに乗り
シーブックと対峙する。

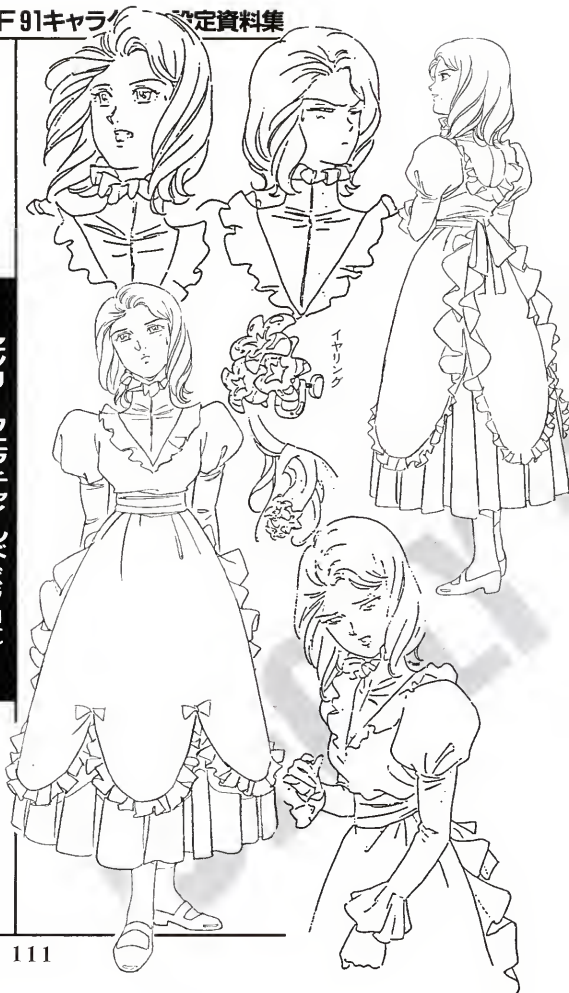
セシリーフェアチャイルド(ベラ・ロナ)



セシリー・フエアチャイルド(ヘラ・ロナ)









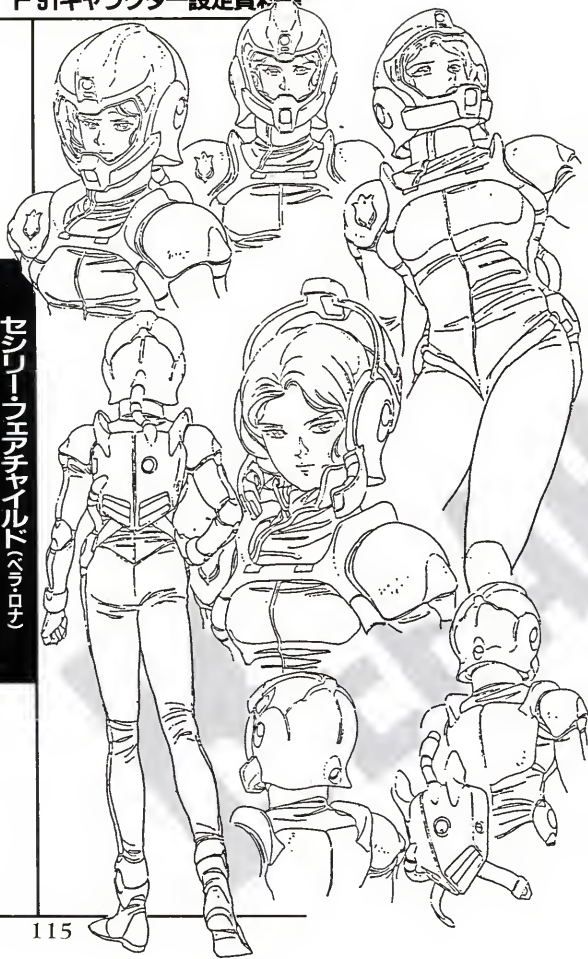
セシリー・フェアチャイルド(ペラ・ロナ)

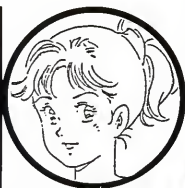


髪を切ったセシリー



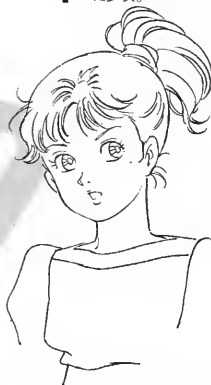
セシリー・フェアチャイルド(ペラ・ロナ)





リズ・アノー

シーブックの妹。幼いながらもしっかりもので、兄思いの少女。家と子供を捨てて仕事を取った母親に反感を覚え、その母の手掛けたMSに乗るはめになった兄の身を安じる。戦争のために父親を失い、帰って来た母親には甘えようとはせず、逆になすべきことをさとするという気丈さをもっていた少女。



リズ・アノー



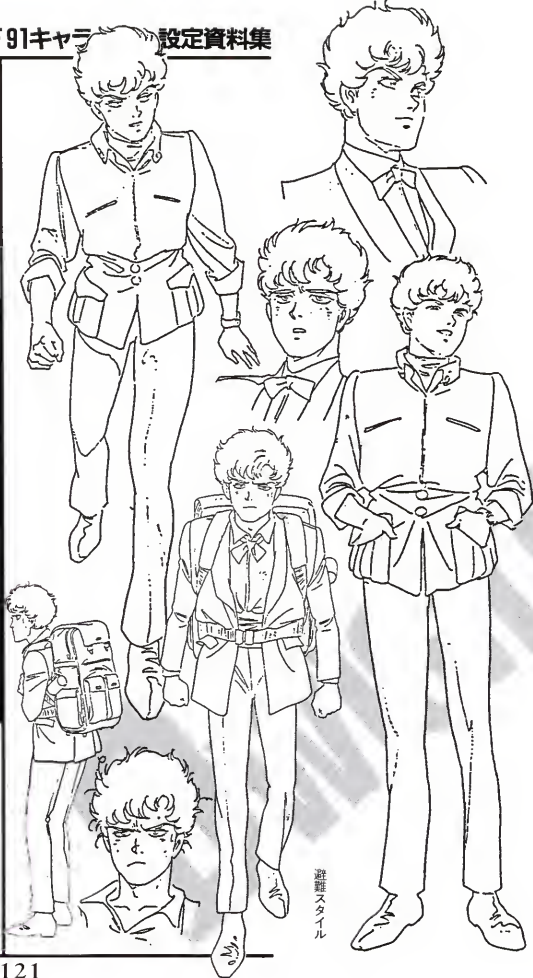




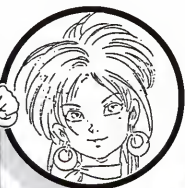
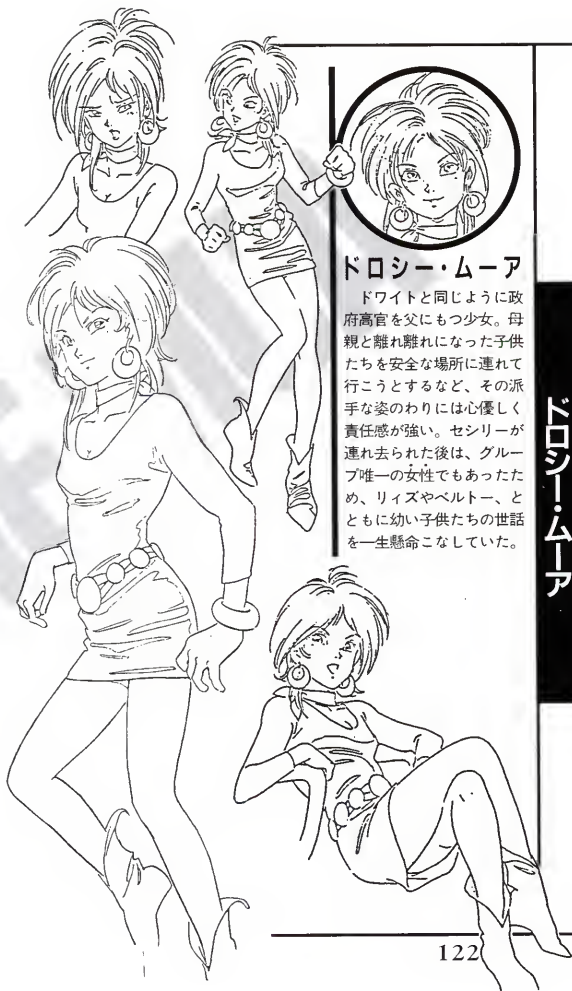
ドワイト・カムリ

軍の高官を父に持つシーブックの友人で、ハイスクールの生徒会長。フロンティアⅣを脱出したシーブックたちグループの中では最年長者。しかし多少気弱な所があり、リーダーシップをとりきれない。セシリーに惚れているわりには彼女を頼ってロナ家にとりいってもらおうという軟弱さも持ち合わせている。





避難スタイル



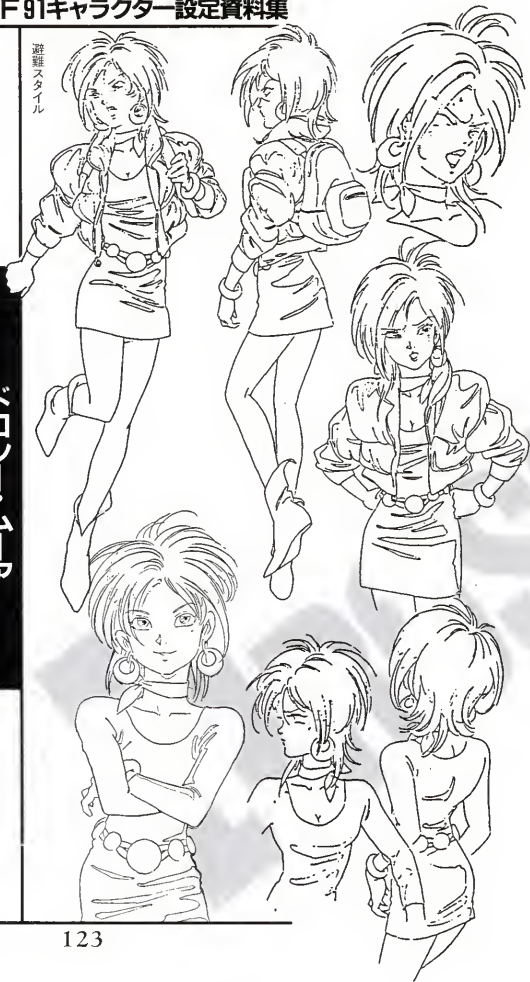
ドロシー・ムーア

ドワイトと同じように政府高官を父にもつ少女。母親と離れ離れになった子供たちを安全な場所に連れて行こうとするなど、その派手な姿のわりには心優しく責任感が強い。セシリーが連れ去られた後は、グループ唯一の女性でもあったため、リズやベルトー、とともに幼い子供たちの世話を一生懸命こなしていた。

ドロシー・ムーア

避難
スタイル

ドロシー・ムーア





サム・エルグ

フロンティアⅣのハイス
クールに通うシーブックの
クラスメート。行動派の少
年で、こう思ったことは
すぐに行動に移すタイプ。
まず身の安全を図ろうと
したシーブックたちとは違い、
アーサーらとともにガンタ
ンクに乗り、積極的に戦争
に参加しようとした。



サム・エルグ



ジョージ・アズマ

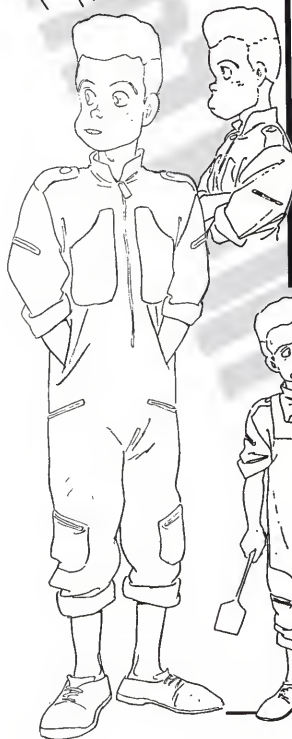
シーブックと同じハイスクールの普通科に通う少年。おっとりとした性格だが、危険な仕事にみずから進み得るといった勇気のある少年。コロニーの内情にくわしくクロスボーン襲撃時にレズリーとともにシーブックたちをスペースポートへ導くのに貢献した。





アーサー・ユング

シーブックと同じくハイ
スクールの機械化に通う少
年。軍や兵器関係に詳しく、
戦争から逃避行を続けるシ
ーブックたちには、なくて
はならない存在だった。し
かし、先走りする性格から
ロイ・ユングとともに戦争
に参加、若い命を失ってし
まった。



アーサー・ユング



リア・マリーバ

大人をサポートするおちゃめな女の子。他人のめんどうみもいい。



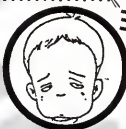
ベルト・ロドリゲス

リーズのボーイフレンド。多少おっちょこちょい。



コチュン・ハイン

MSの薬莖に当たって母親を失った孤児になってしまった赤ん坊。



ミゲン・マウジン

戦争のため母親と離れ離れになってしまった泣き虫な少年。

母親とともに

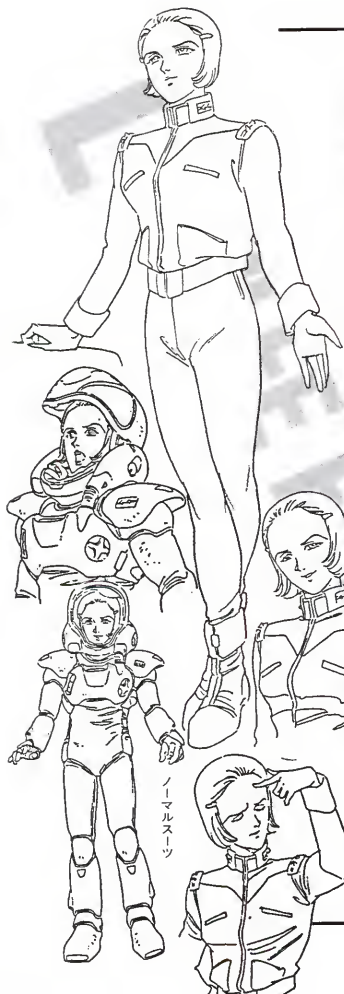




レアリー・エドベリ

地球連邦軍練習艦、スペース・アークの艦長代理。フロンティアサイドのフロンティアIで訓練を行っていた士官候補生だったが、クロスボーンの襲撃によって正式軍人のほとんどが駆り出されて戦死、敵軍に投降、あるいは敵前逃亡した。そのため、あとに残った軍人の卵たちを連れてフロンティアIVからスペース・アークで脱出しようとした。

レアリー・エドベリ



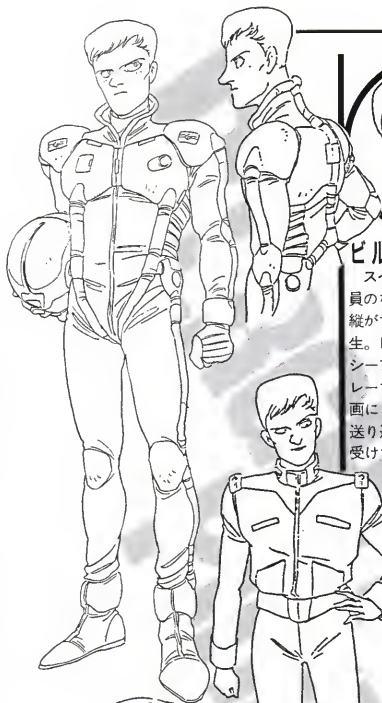
ノーマルスーツ



マヌエラ・パノパ

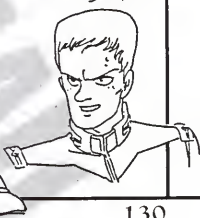
練習艦スペース・アークの操舵手。レアリー同様—士官候補生だったが、正式軍人がいなくなってしまったため、むりやり操舵手にされてしまった。慣れない巡洋艦の操縦に四苦八苦しながらも、クロスボーンの攻撃を避けて艦をコロニーの外に運び出した。自分の操舵ぶりを自画自賛するなど、お調子者である。

ノーマルスーツ



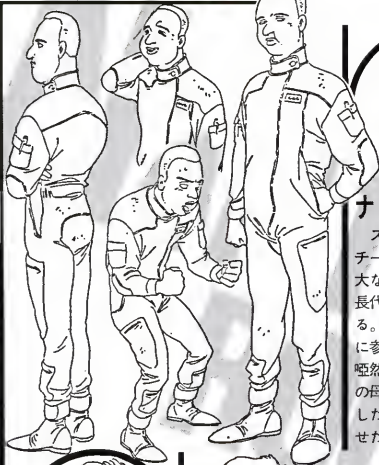
ビルギット・ピリオ

スペース・アークの乗組員のなかで、唯一MSの操縦ができたパイロット候補生。MSヘビーガンを駆り、シーブックのF91と連係プレーで戦った。鉄仮面の計画によりフロンティアIに送り込まれたバグの攻撃を受けて、壮絶な死をとげた。



ビルギット・ピリオ

ナント・ルース・グルス・エラス



ナント・ルース

スペース・アークのチーフメカニック。寛大な性格でレアリ艦長代理の知恵袋でもある。F91に乗って戦闘に参加する息子の姿に啞然とするシーブックの母親、モニカを説得したのも彼の人徳のなせたわざか……。



グルス・エラス

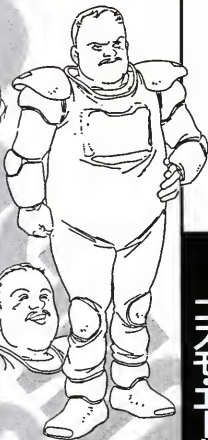
スペース・アークのメカニックマン。サナリイの施設に置き去りになっていたF91を回収、実戦配備にとセッティングしていた。唯一不可解だった配線系の謎をリズに解いてもらいついにF91を可動可能にした。





コスモ・エーゲス

クロスボーンに抵抗していたレジスタンスグループのリーダー的人物。もと連邦軍の退役軍人で、スペース・アークに関してやたらと口を出す。軍籍の件を問いただされると正規の軍人を連れて来るという厭味なおじさん。



バルド

フロンティアIV駐留連邦軍中尉。冷酷な性格で、必要とあらば子供を盾にしてまでも戦う男。ガンタンクで逃げようとしたシーブックたちを防衛戦闘に参加させようとして、MSをけしかけるという非道の軍人。



コスモ・エーゲス・バルド



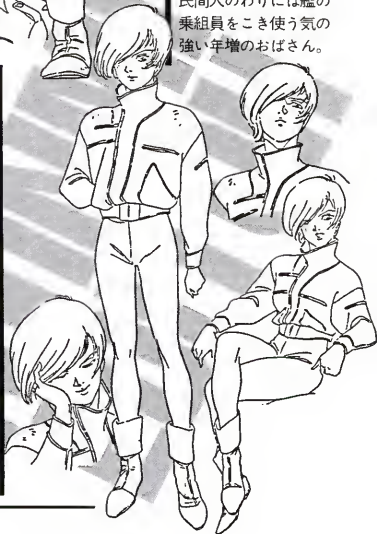
エルム

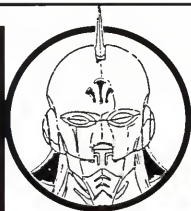
フロンティアIのレジスタンスグループの女戦士。コスモと連絡を取り、スペース・アークをレジスタンスの拠点にしようと仲間と共に乗り込んで来た。民間人のわりには艦の乗組員をこき使う気の強い年増のおばさん。



ミン・エディット

コスモとともにスペース・アークに乗り込んでいたレジスタンスの看護婦。シオの銃弾によって傷を負ったシーブックの怪我を治療した。もともとは看護学校に通う学生だったが、戦争のためレジスタンスに身を投じた。



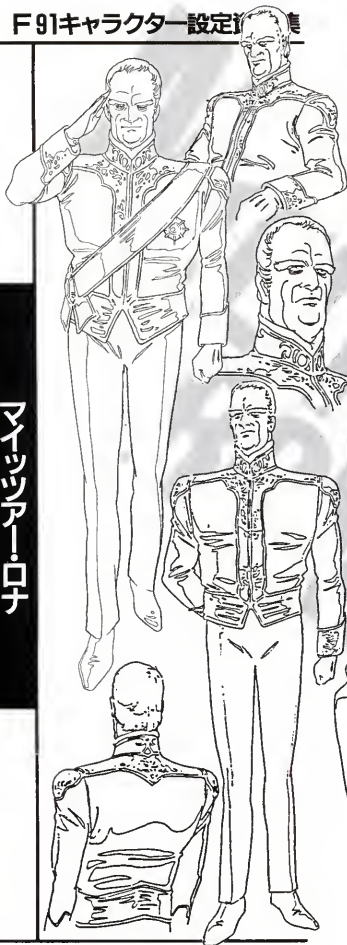


鉄 仮 面

クロスボーン軍の最高指揮官で、ベラ・ロナの実の父親、カロッゾ・ロナ。人類を永遠に生き延びさせるという『ラフレシア・プロジェクト』を発案。自らの身体を強化人間に変えてまで義父、マイツァーの夢を実現させようとした。

鉄仮面

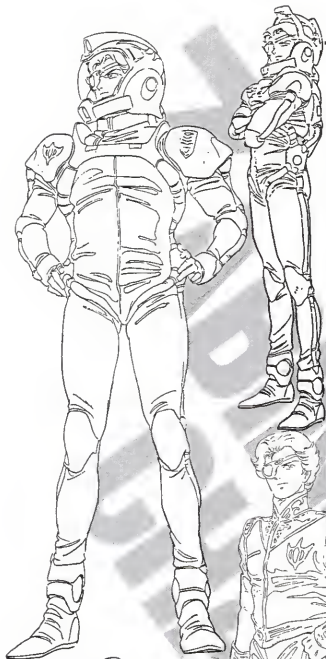




マイツァー・ロナ

ロナ家の長にしてクロス
ボーン・バンガードの総帥。
民衆を守るために、高貴な
人間は率先して己の血を流
さなければならず、人と
世を治めるのは自らの血を
流すことを恐れない、高貴
な者だという貴族主義の実
践者である。





ザビーネ・シャル

クロスボーン軍の中で、最強とうたわれる『黒の部隊』を率いる猛者。マイツァーから、ロナ家に戻ったベラ・ロナの補佐役をうけたまわり、彼女にMSの操縦を教える。部下に厳しく、卑怯なことがきらいな実直な武人。



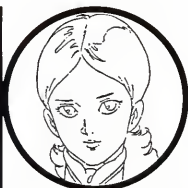
ザビーネ・シャル



ドレル・ロナ

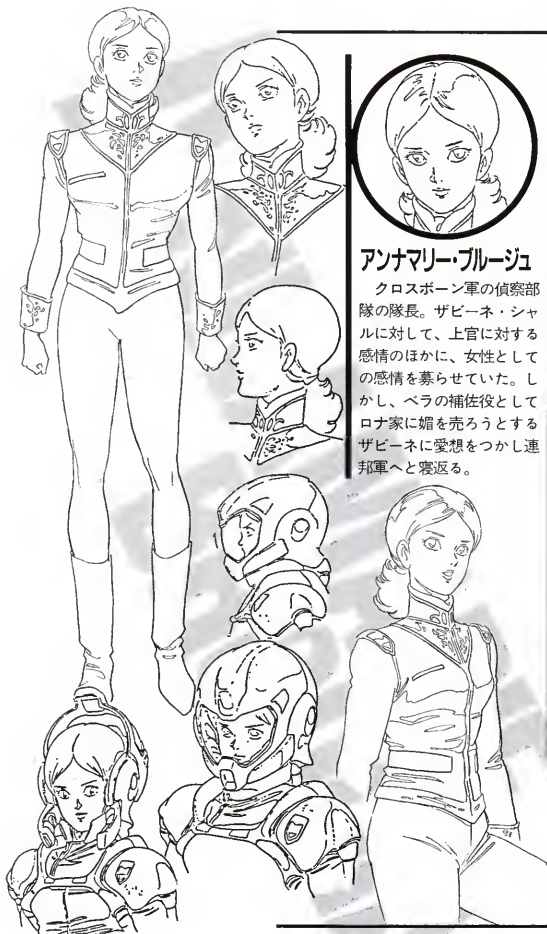
ロナ家の長男にしてベラ・ロナの兄。祖父マイツァーの命をうけ、母親と出奔した妹を連れ戻すためにフロンティアⅣに奇襲をかけた。『黒の部隊』を率いるザビーネにはひそかにライバル心を燃やしているが、多少先走りの性格である。





アンナマリー・ブルージュ

クロスボーン軍の偵察部隊の隊長。ザビーネ・シャルに対して、上官に対する感情のほかに、女性としての感情を募らせていた。しかし、ベラの補佐役としてロナ家に媚を売ろうとするザビーネに愛想をつかし連邦軍へと寝返る。





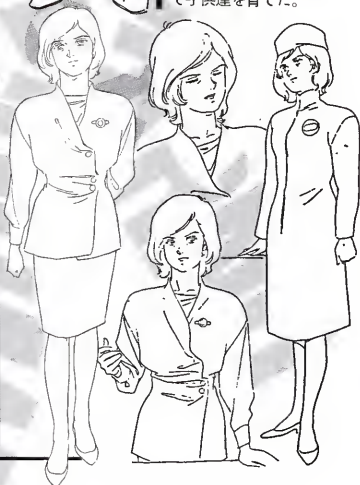
レスリー・アノー

シーブックの父親。かつては第一線で活躍していた金属工学の技術者であった。しかし、兵器の開発に携わることを嫌って身を引き港湾建設作業員となる。逆に、仕事のために妻が家を捨てたため一人で子供達を育てた。



モニカ・アノー

シーブックの母で、バイオコンピューター関連の第一人者。夫とはうらはらに、家庭と子供を捨ててまで仕事に情熱をかけ、地球連邦軍の新型MS F91の開発プロジェクトに携わる。





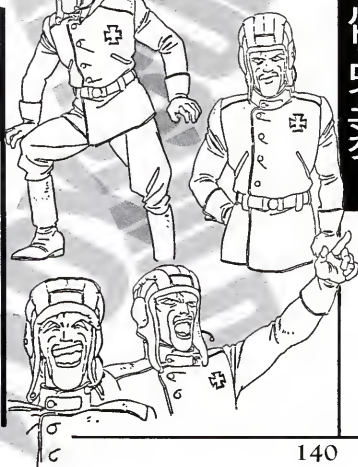
シオ・フェアチャイルド

ベラ・ロナをセシリーとして育てた養父。フロンティアⅣでパン屋を経営しており、成長したベラをロナ家に引き渡し、恩恵に預かろうとした。ベラをカロッゾに引き渡したあと、ロナ邸にて謀殺された。



ロイ・ユング

地球連邦軍の退役軍人で、戦争静物館の館長。連邦軍から払い下してもらったガンタンクを、自分でレストアしてしまうほどの軍事マニアでもある。クロスボーン襲来時、そのガンタンクで出撃し戦死？ してしまう。



シオ・フェアチャイルド、ロイ・ユング



ナディア・ロナ

ベラ・ロナの母。父であるマイッツァーの唱える貴族主義の重圧に耐え兼ね、10年前に家を捨て、娘のベラを連れ、シオ・フェアチャイルドとかけおちした。しかし、その後シオのモトからも姿をくらます。レジスタンスに身をおいていた。



ドレル・ロナ	32、137
ドロシー・ムーア	28、112
ドワイト・カムリ	28、119

ナ行

ナディア・ロナ	140
ナント・ルース	30、131

ハ行

バルド	31、132
ビルギット・ピリヨ	31、130
ベルトー・ロドリゲス	29、127

マ行

マイツァー・ロナ	2、32、134
マヌエラ・パノパ	30、129
ミゲン・マウジン	29、127
ミンミ・エディット	133
モニカ・アノー	30、139

ラ行

リア・マリーノ	29、127
リイズ・アノー	4、29、116
レアリー・エドベリ	30、128
レズリー・アノー	30、139
ロイ・ユング	29、140

用語

MCA	36
クロスボーン・バンガード	2、38、56
コスモ貴族主義	2、54
コスモ・クルス	2、54
コスモ・バビロニア	56
サナリイ	36
シェルフ・ノズル	20、58、87
ショット・ランサー	20、87
ニュータイプ	52
バイオ・コンピュータ	62
BUG	2、5、42
ビーム・シールド	14、58、66、99
ビーム・フラッグ	38、89
フィン・ノズル	19、84
フォーミュラー	36
ブラック・バンガード	6、24
フロンティア・サイド	52
フロンティアIV	4、52
フロンティアI	52

宇宙艦

ザムス・ガル	27
ザムス・ギリ	27
ザムス・ジェス	27
ザムス・ナーダ	26
スペース・アーク	26

MS大図鑑 PART.5 「コスモ・バビロニア建国戦争編」

索引 INDEX

●映画「機動戦士ガンダムF91」に登場した主要、MS、MA、キャラクター、宇宙艦、用語をアルファベット・50音順にまとめました。見出しの単語を選び、記されているページを見て下

さい。その単語の解説、あるいは関連する事項がわかるようになっています。なお、MS、MAに関しては型式番号をアルファベット順に検索できるようになっています。

MS&MA

F71 G・キャノン	4、12、16、36、46、62、72
F91 ガンダム F91	8、12、14、36、46、67
RGM-89 J ジェガン	12、36、46、80
RGM-89M ジェガン	46、80
RGM-89 R ジェガン	46、80
RGM-109 ヘビーガン	4、12、18、36、46、78
RXR-44 ガンタンクR-44	4、12、17、36、46、75
XM-01 デナン・ゾン	6、12、22、40、46、59、93
XM-02 デナン・ゲ	6、12、23、39、46、95
XM-03 エビル・S	6、12、24、40、46、97
XM-04 ベルガ・ダラス	12、23、40、46、89
XM-05 ベルガ・ギロス	6、12、20、42、46、87
XM-06 ダギ・イルス	6、12、21、40、46、91
XM-07 ビギナ・ギナ	8、12、19、42、46、60、84
XMA-01 ラフレシア	8、12、25、42、46、100

キャラクター

ア行

アーサー・ユング	28、126
アンナマリー・プルージュ	32、138
エルム夫人	133

カ行

グルス・エラス	31、131
コズモ・ユーゲス	132
コチュン・ハイン	29、127

サ行

ザビーネ・シャル	6、32、136
サム・エルグ	28、124
シーブック・アノー	4、8、28、102
シオ・フェアチャイルド	30、140
ジョージ・アズマ	29、125
ジレ・クリューガー	32
セシリー・フェアチャイルド (ペラ・ロナ)	4、8、31、108

タ行

鉄仮面 (カロッゾ・ロナ)	8、32、134
---------------	----------

STAFF

企画

株式会社メディアワークス
第4編集部・書籍編集課 (安藤利明)

構成・編集

仲重舎
井上 徹
渡辺利浩

装丁

タケモトアツシ (t-DESIGN LAB.)

カバーイラスト

As'maria

デザイン

仲重舎
シイバミツヲ&ケンジ

協力

株式会社サンライズ (井上幸一)

宇宙世紀ボックス 機動戦士ガンダムMS大図鑑 PART.5【コスモ・パピロニア建国戦争編】

CONTENTS

MS戦史 MS War History	2
MS対比図 Contrast of MS	12
MS名鑑 MS Catalogue	14
宇宙艦名鑑 Star Ship Catalogue	26
キャラクター名鑑 Character Catalogue	28
MS開発史 MS Development History	33
MS性能比較 An ability symmetry of MS	45
ガンダム・オフィシャル・レポート GUNDAM Official Report	51
歴史 History	52
機動兵器 Mobile Weapon	58
設定資料集 Design Collection	65
MS Mobile Suit	66
キャラクター character	102
MS用語辞典MS Glossary	44, 50, 64
索引 Index	142

※本書は1991年6月に株式会社バンダイ・出版課より発行されたエンターテインメントバイブル・シリーズ「機動戦士ガンダム MS大図鑑Part5【コスモ・パピロニア建国戦争編】」を復刻した物です。文章・データに2005年現在と合致しない部分がございますが、原書のままですのでご容赦下さい。
※ご協力いただいた方々の所属は発行当時のまま記載しております。

発行 2005年3月20日 初版発行

発行者 佐藤辰男

発行所 株式会社メディアワークス
〒101-8305 東京都千代田区神田駿河台1-8東京YWCA会館
TEL.03-5281-5243(編集)

発売元 株式会社角川書店
〒102-8177 東京都千代田区富士見2-13-3
TEL.03-3238-8605(営業)

印刷所 共同印刷株式会社

落丁・乱丁本はお取り替えします。

©創通エージェンシー・サンライズ

分売不可

Printed in Japan

[R]本書の全部または一部を無断で複写(コピー)することは、著作権法上の例外を除き、禁じられています。本書からの複写を希望される場合は、日本複写権センター(03-3401-2382)にご連絡下さい。

MS ENCYCLOPEDIA

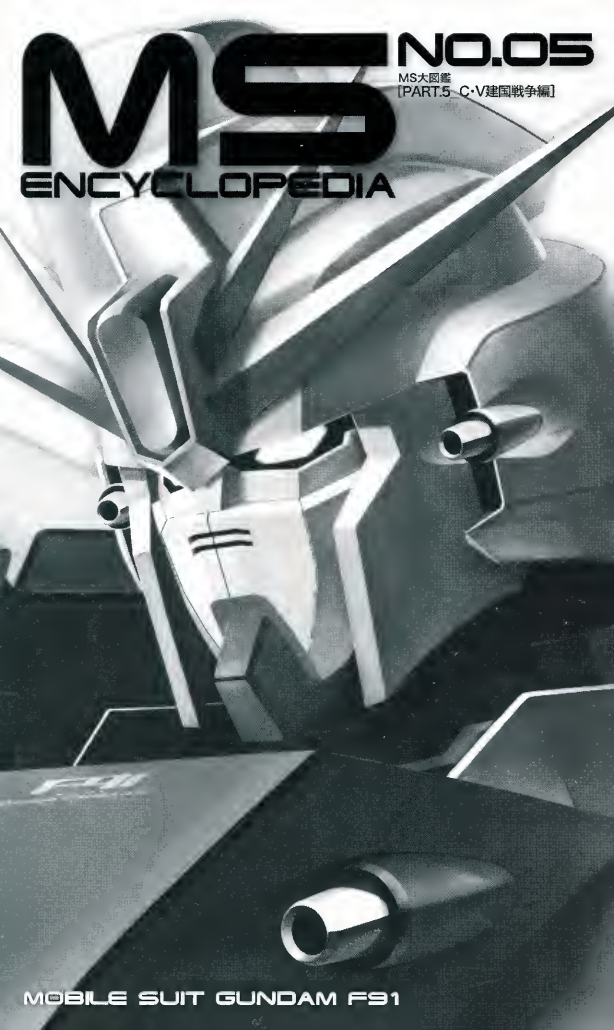
NO.05

MS大図鑑
[PART.5 C-V建国戦争編]



MOBILE SUIT GUNDAM F91

MS ENCYCLOPEDIA

A detailed, close-up illustration of the head of a Mobile Suit Gundam F91. The suit is primarily white with grey and black accents. The visor is a large, angular, black structure. The head is shown from a low angle, looking upwards, with a sense of depth and perspective. The background is a light, hazy grey.

NO.05

MS大図鑑
[PART.5 C・V建国戦争編]

MOBILE SUIT GUNDAM F91

MS NO.05 ENCYCLOPEDIA

.....

MOBILE SUIT GUNDAM F91

MS

NO.05
ENCYCLOPEDIA

.....

MOBILE SUIT GUNDAM F91

アロムコックマンズ

【雑誌】アロム・マンズ・コックマンズ

NO.2020 KODOKU

MS大図鑑[PART.5]スモ・バビ
ア建国戦争編

NO.05